「私たちの新しい生き方」

編集にあたって

――本書を利用される先生方へ――

1　道徳教育の基本的な考え方

学習指導要領には，「道徳教育は，人が一生を通じて追究すべき人格形成の根幹に関わるものであり，同時に民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものでもある。また，道徳教育を通じて育成される道徳性，とりわけ，内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度，豊かな情操などは，「豊かな心」だけでなく，「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり，「生きる力」を育むために極めて重要なものである。」（中学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編」平成 29 年 7 月）と記されています。

中学校の道徳教育では，「人間としての生き方についての考え」をどう深めていくかが大切です。すでに生徒の内にある道徳的諸価値をもとに，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えをいっそう深めていく過程が重要な鍵と言えます。

言うまでもなく，学校における道徳教育は全教育活動を通して行われるものです。学習指導要領では，ボランティア活動や自然体験活動などの体験活動を十分に生かした道徳教育の推進が提唱されています。そして，その中核となるのは，道徳科の時間です。生徒が日常の流れの中でひととき立ち止まり，自ら考え判断しながら，人間としての生き方についての考えを深め，豊かな人間性と生きる力を育むための確かな時間にしたいものです。

2　「私たちの新しい生き方」の特色と編集の基本的な方針

従来の「私たちの新しい生き方」は，昭和30年代初期のホームルーム用指導教材「私達の中学校生活」を出発点としています。したがって，生徒の日常生活やその感覚に根ざした教材，また心を揺り動かし人間について深く考えられる教材，互いの考えを練り上げていく葛藤のある教材など，人間としてのよりよい生き方を考え，深めていくことのできる教材を多く掲載しています。また，長年，改訂を重ねる中で，今日的な話題性のある教材，地域や郷土の教材など多様で幅広い教材も加わり，指導の効果が高まるように工夫してきました。さらに，実際に教材を活用した授業を分析し，指導者の意見を聴取するなど，常に現場の声に耳を傾け，これを取り入れながら授業に生きる教材を目指して編集し，多くの学校で副読本として採用されてきました。

しかしながら，2019年度から道徳の時間は，「特別の教科　道徳」（以下，道徳科）となり，各自治体採択の教科書を使って授業することになります。これまで，長きにわたり，活用されてきた「私たちの新しい生き方」は，平成30年度版をもってその使命を終え，新たに3年間使用できる新潟県版道徳教材集「私たちの新しい生き方」として再出発することとしました。

編集にあたり，「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」を養うためには，新潟県の郷土教材で学ぶことも重要であるとの視点に基づき，従来の「私たちの新しい生き方 1～3 年生」の教材及び新潟県郷土資料集「越佐の心」「生命の詩」などから教材を厳選し，新潟県版道徳教材集として編集することとしました。

3　「私たちの新しい生き方」の内容と組立

この教材集は，学習指導要領「特別の教科　道徳」の内容22項目に即して，33編の教材で構成されていますので，教科書教材と差し替えや追加が可能です。「差し替え対応表」を参照してください。

(1)　生徒用教材

生徒の発達段階を考慮し，親しみやすい，心に残るものを用意しました。「教材ガイド」を参照してください。

(2)　主題名（指導書のみに掲載）

教師用指導書には，33教材すべてにわたって主題名が付いています。これは，内容項目と教材の関連がある程度見通せるようにするためです。ただし，生徒の受け止め方や指導の展開を考慮して，生徒用教材には付いていません。

4　教材の活用について

道徳の時間の指導にあたって大切なことは，生徒自身に内在する価値をどのように補充，深化，統合し，どのような価値にまで高めるかという「ねらい」を明確にすることです。その意味で「まず教材ありき」でなく，「まずねらいありき」です。したがって，「ねらい」によって教材の選択や活用のしかたが決定されることになります。教材によってねらいが限定されたり，指導過程が決まったりしたのでは「教材で始まり，教材で終わる」という，生徒の意識と距離のある展開になりがちです。結果，教材そのものが生かされないことになります。掲載された教材をどう活用するかは，各学級の生徒の実態に即して工夫されるよう期待いたします。

それには，各教材の指導計画にある「展開の工夫」や「教材解説」を活用してください。

教師用指導書の構成について

番号	教　材　名	主　題　名	学習指導要領の内容項目との関連を番号で示してあります。
ねらい	本主題においてねらう道徳性を，教材の内容と照らして，簡明にしかも具体的に示してあります。		

指導内容について

生徒について

ねらいから見た生徒の発達段階や生活の実態から，生徒がもっている道徳的な意識を示してあります。

主題について

学習指導要領の道徳教育の目標・内容を踏まえ，本主題のねらいに則して特に焦点付けて扱う内容の観点から，生徒に内在する道徳的価値をさらに高め，育てたい道徳的価値を示しました。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」等との関連について示しました。他の教育活動における道徳教育の展開に活用できます。

教材について

展開の工夫

教材を効果的に活用し，主題のねらいを達成するために，教材をどのように扱うかを示しました。

教材解説＜あらすじ＞

教材のあらすじや教材に含まれる価値について示しました。

出典・その他

教材の深い理解を図るため，その出典等を示しました。

本文の構成

深化させたい道徳的価値や対比して考えさせたい道徳的価値を展開の流れに沿って記述してあります。
指導の流れがわかるように配慮してあります。

評価の観点

生徒の道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲と態度及び道徳的習慣について，本主題のねらいとの関係から評価の観点を示しました。

展開例

○各教材の展開例を展開のポイントとともに掲載してあります。

○主な発問は，問題提起の発問・教材提示後の発問・考えを深めさせる発問・話し合い活動を指示する発問・価値葛藤の場面での発問・「私だったら」という生徒の主体的判断を引き出す発問・多様な価値を引き出す発問等を考慮しました。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　教材を把握し，問題に気付く。 ・教材の内容を把握する。 ・問題意識をもつ。 ・自分の思いや感想を発表する。	・効果的な内容把握の工夫や意図的な指名による発言の促し方を示す。 ・生徒の活動を促したり，援助したりする別の視点からの方策や教材取り扱い上の留意点を示す。
2　道徳的価値を深める。 ・教材の主人公を客体として，自己の道徳的価値を深めようとする。 ・教材における問題を自分の立場で考え，討論によってそれぞれの価値観を知る。	・生徒の道徳的価値観を深め，高めていく援助の手だてや展開の工夫，討論の方法等を示す。 ・□　…ねらいに迫る中心発問 ・⬚　…発問・指示
3　自分に結び付ける ・授業を通して学んだこと，気付いたこと，深まった価値観を主体的に受け止め，どのように生活に結び付けるかをまとめる。	・発表，補助教材，教師の説話などにより，学んだことを効果的に自分に結び付ける援助の手だてや道徳的実践への意欲を湧きたてる工夫を示す。

「私たちの新しい生き方」教 材 ガ イ ド

編集　新 潟 県 中 学 校 長 会
「新しい生き方」編集部会
株式会社　新　学　社

※項目＝学習指導要領の項目番号を示す。

	※内容項目		教 材 名	教 材 ガ イ ド
1	A-(1)	自主，自律，自由と責任	スランプ	吹奏楽部員が，自分に行きづまりを感じ，悩みながらつい安易な方向に心が動いていく不安をつづった作文。
2	A-(2)	節度，節制	マゴワヤサシイ	メールにゲーム，コンビニ。現代の生活にどっぷり浸かっていた私は母の実家に預けられる。祖母と過ごした日々の中で，農作業の手伝いや食事の準備をすることで食生活を見直し始める。
3	A-(3)	向上心，個性の伸長	「小さな大エース」と呼ばれた挑戦者	ソウルオリンピックに出場し，「小さな大エース」と呼ばれた新潟出身の「山下美弥子」の物語。
4	A-(4)	希望と勇気，克己と強い意志	剱岳に魅せられて	山岳警備隊員である若者は「戦場のような」現場で救助活動を行っている。自分の仕事に誠実かつ果敢に挑む姿を通して，人生における生きがいや喜びを描く。
5			目の不自由な人に教育の光を―大森隆碩―	失明寸前の状況に陥った大森隆碩が，視覚障害者に対する学校教育の必要性を痛感し，様々な困難にも負けずに，全国に先駆けて高田に盲学校を創設する。
6	A-(5)	真理の探究，創造	カラフトは離島なり―松田伝十郎の発見―	間宮林蔵らと樺太が離島であることを最初に確認した柏崎出身の松田伝十郎。命がけの使命を遂行させる原動力となったのは，少年の頃から心に抱いていた「広い世界を知りたい」という思いだった。
7	B-(6)	思いやり，感謝	月明かりで見送った夜汽車	文化祭のために夜遅くまで学校で準備をしていたＩ先生は，国体の代表として高田駅から夜汽車に乗らなければならない。途中で出ていったＩ先生を，沿線に建つ校舎の電灯を消して見送った。
8	B-(7)	礼儀	荷物	タクシーのベテラン運転手の乱暴な運転を，「私は壊れやすい荷物です」と優しくユーモアをもってさとすおばあさんの言葉に，運転手は…
9	B-(8)	友情，信頼	行かなかったサイクリング	突然の旧友の来訪で，友だちとのサイクリングの約束を破ってしまった少年が，友情のあり方について悩む姿を描く。
10	B-(9)	相互理解，寛容	勝手にしろ	体育祭の応援の企画中，赤組の団長とリーダーたちとの間に意見のくいちがいができ，その中で協調のあり方に悩む生徒の作文。
11			「しかし」の壁	一社員青木青年は「しかし」という口癖で他人の言葉や意見を寄せ付けない。
12	C-(10)	遵法精神，公徳心《情報モラル》	アイドルグループ○○　極秘路上ライブ！	ＳＮＳに熱中する圭子に「アイドルが極秘路上ライブをする」というメッセージが入る。軽い気持ちでその情報を友人に伝えた結果，大勢の人に間違った情報が伝わり迷惑をかけてしまう。
13	C-(11)	公正，公平，社会正義	豊かなれ阿賀の流れよ～新潟水俣病の苦悩をこえて～	阿賀野川流域の豊かな生活と地域の絆を破壊した「新潟水俣病」。患者の心身の苦悩を共感的に捉え，差別や偏見のない社会を目指す郷土資料。
14	C-(12)	社会参画，公共の精神	サポーター	サッカーの試合開始時刻が迫る中，混雑するバス停。その中を泣きながら歩く迷子。見て見ぬふりをする人が多い中，勇太たちはその子を係員のもとへ連れて行くのだが…。
15			助け合い	中越地震の被災の中でボランティアが見た人々の助け合い，支え合って生きる姿が描かれている。

16	C-(13)	勤労	職場体験レポート	仕事に対する厳しい態度や言葉。職場体験出会った，命懸けで仕事にのぞみ，誇りをもって働いている人々の姿。
17			山男の心	荒廃する山小屋を修理し守り続け，奉仕活動を生きがいとしているひげ面の山男の話。
18	C-(14)	家族愛，家族生活の充実	心をつなぐカレンダー	障害をもつ岡田さんは子どものころのカレンダーへの思いからカレンダーにこだわって「はり絵」を続ける。その「はり絵」によって育まれる心の連帯。
19	C-(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	あじみこ+そ	「相手のあいさつに返すあいさつはただの返事」という先生からの言葉をきっかけに，自分たちのあいさつをもう一度振り返り，よりよい学校生活を目指していこうとする生徒の作文。
20	C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度	郷土芸能クラブ	初めは気乗りのしなかった国指定文化財の文弥人形のクラブ活動だったが，次第に伝統芸能の世界に引きこまれていく佐渡の中学生の作文。
21			わたしの町	県北の城下町村上市の町おこしの取り組みと「わたし」の町に寄せる思いが描かれている。
22			米百俵	郷土の将来に夢を託し，藩の援助米を教育の礎のために投げうつ長岡藩家老小林虎三郎の信条と英断を描く戯曲。
23			郷土を水害から救った人―中山龍次―	信濃川の洪水により，毎年のように被害を被っている郷土十日町を救うために，治水工事に取り組もうと決意し，実現させた中山龍次の熱意。
24	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	さよなら，ホストファミリー	中学二年生の知子が，ニュージーランドでホームステイを体験する。ホストファミリーのソニアが自国に誇りをもっているのに対し，知子は日本の文化や伝統をよく知らないことを反省する。
25	C-(18)	国際理解，国際貢献	アンニョンハセヨ	韓国でのホームステイを通して独特の生活習慣やものの感じ方や考え方に触れ，その背景にある人々の願いや歴史に思いを寄せていく。
26			舞い降りる天女の下で	直江津捕虜収容所跡地に建てられた平和友好記念像の除幕式に，吹奏楽部員として参加した生徒の作文。平和と友好のために努力していきたいという素直な気持ちが書かれている。
27	D-(19)	生命の尊さ	長岡空襲で	長岡空襲を体験した二人が描いた絵画とそのエピソード。
28			いのちをつなぐ	「骨髄バンク」に登録した主人公が実際に骨髄ドナー候補になり，かけがえのない生命について考え始める。
29	D-(20)	自然愛護	トキよ再び大空に	トキ保護の長い歴史と人々の苦労，そして未来の姿を真摯に捉え環境問題や生命の大切さなどについて考える。
30			佐潟と生きる	砂丘湖でありながら湿地特有の自然生態系を保ち水鳥の住む佐潟。主人公は自分が好む「釣り」が佐潟の生態系に大きな影響を及ぼしていることを知り複雑な思いをもつ。
31	D-(21)	感動，畏敬の念	はやぶさ　小惑星イトカワの砂を地球へ	「はやぶさ」は，小惑星イトカワの砂を地球に持ち帰るという人類初の快挙を成し遂げた。多くのトラブルをあきらめずに乗り越えた，プロジェクトのリーダーの想いを語る。
32			偉大なる力をもつ自然，素晴らしき自然	新潟県内にある恩恵をもたらす自然環境の写真資料，身近に起こった自然災害の資料，そして新潟地震を体験した中学生の作文。
33	D-(22)	よりよく生きる喜び	死を見つめて生きる　生命の詩―矢沢　宰―	幼い頃から闘病生活を余儀なくされながらも，詩作に励むことで死の恐怖と闘い，生命を全うした見附市出身の早世の詩人・矢沢宰の気高い生き方。

1	教材名 スランプ	主題名 自由と責任	A－（1）
ねらい	困難にぶつかったとき，自分や周りに誠実で責任ある行動をする。		

指導内容について

生徒について

学校生活の中で，部活動・学級の係活動・委員会活動・学習等において行き詰まりを感じ，悩みをもった生徒も多いと思われる。

さらに，目標の実現に向けての努力の過程で，些細なことで挫折したり，途中で投げ出したりして，安易な解決をしようとする生徒もみられる。

主題について

自分の生活を振り返りながら，自分の決めた目標に向かって，その実現への努力を続けることが大切である。そして，その過程で起きてくる様々な障害や失敗にくじけることなく，最後までやり抜き，良心に基づいて行動することの大切さを理解させたい。

他の教育活動との関連

運動部，文化部に関わらず，部活動ではあり得る状況を問題場面としている。

教材について

展開の工夫

・まず，主人公の置かれた状況を理解し，主人公の葛藤に共感することによって，自分の問題として学習を深めさせたい。
・共感させながらも，傷のなめ合いではなく，限界や劣等感，そこからくる「逃げ」の行動や考え方の問題点を十分に考えさせたい。
・部活動の在り方や顧問の指導方法の是非へ関心が向き，思考が分散することのないようにする。

教材解説＜あらすじ＞

・主人公は，バンドでピッコロを担当する生徒。スランプに陥り，合宿で先生に厳しく注意されたり，仲間の視線が冷たかったりして落ち込む。そんな，自分に行き詰まりを感じた生徒が，安易な道に逃げた方が楽なのではないかと思い悩む作文。主人公の気持ちの葛藤が描かれており，共感しやすい。

出典・その他

生徒作品

本文の構成

ブラスバンド部の合宿
・三年生で合宿を計画
顧問の先生にお願いする
「厳しく指導してください」
先生の大きな声
・くじけてはいけない
・負け犬になるまい
・午後から家に帰ろう
・こんな部活動やめたらどうなの
・今は、夏休みなのよ
もう一人の私
・本当にそれでいいの……

評価の観点

○主人公の葛藤に共感しながらも，「自分の行為の結果に責任をもつ」ことの大切さを考えることができたか。
○挫折や困難にぶつかったとき，自分の良心に基づいて行動しようという思いをもつことができたか。

展開のポイント：主人公の葛藤に自我関与させながら，自由と責任について考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　スランプに陥った経験を想起させる。	
2　「私」の思い悩んでいる内容や揺れ動く気持ち，葛藤について共有する。	●責任感に重きをおく。
「私」は何に思い悩んでいるのだろうか。	
	○苦しさや辛さから逃げ出したいと思う「私」と，逃げ出さずにがんばらなければならないと思う「私」の葛藤について理解させる。
3　本文を読み，主人公の現状や思いについて考える。	○主人公の思いや悩み，考えていることについて，どう思うか意見を聞く。
「私」の思いや悩みに対して，あなたはどのくらい共感するか。その理由を書こう。	
	○「私」に対する共感度を４段階で測り，理由を述べ合い話し合うこともできる。 3 とても共感　2 まあまあ共感　1 少し共感　0 共感できない
4　誠実なもう一人の自分に気付く。	
ささやくもう一人の自分はどんな自分だろうか。	
・グループで話し合い，発表する。	○自分で決めたことを最後まであきらめないでやり抜こうとすることの大切さに気付かせる。 ●あきらめて帰るという選択が正当化しないように補助発問等で工夫する。
5　今日の学習で考えたことをまとめる。	
授業で学んだことや考えたことを通して，今後の生活で生かしたいことを書こう。	

2	教材名 マゴワヤサシイ	主題名 節度	Ａ－（２）
ねらい	健康は，心身の鍛練とともに，食生活や節度ある生活が深く関わっていることに気付き，健康的な生活を送ろうとする。		

指導内容について

生徒について

中学校生活で培われた健全な心身は長い生涯の活動を支える土台となる。しかし，最近は通信機器の発達などによる生活の乱れや，家庭の食生活の乱れのために，不規則，不摂生な生活を送り，心身の発達が必ずしも均衡を保っているとはいえない生徒もいる。

心身の健康について生徒は運動面ばかりを考えがちであるが，それを支える食生活を大切にするという視点も重要であることに気付かせたい。

主題について

食生活を中心にした生活習慣の乱れが，心身の健康をむしばむことがある。望ましい生活習慣を身に付けることが，心身の健康の増進につながることに気付かせ，自らの生活を振り返り，よりよい食生活を送れるようにしていきたい。

他の教育活動との関連

技術・家庭や保健体育，「総合的な学習の時間」などで行う「食」に関する指導。

教材について

展開の工夫

・日常生活の不調な原因について考えさせるとともに，日本の食文化の良さに気付かせ，健全な生活にはバランスのよい食生活が必要なことを理解させる。
・自分自身の食生活や生活習慣を振り返らせ，改善点を２つに絞ることで実行する意欲をもたせる。

教材解説＜あらすじ＞

・乱れた生活習慣や食生活のために，部活や勉強がなかなかうまくいっていない中学生ミキ。母の入院によって，携帯も通じない祖母の家へ夏休み中預けられる。朝早く起きて畑仕事を手伝い，和食を中心にきちんと食事をとって１か月。食事の支度を手伝いながら，料理を教わり，食生活の大切さや和食の良さに気付かされる。母の元へ帰る彼女は，心身ともに健康な生活になっていた。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成

ミキのこれまでの生活
〈乱れた生活〉
・夜遅くまでメール、携帯、ゲーム漬け
・コンビニ、惣菜で遅い夕食
・朝食抜き

・集中力なし、成績下降
・周りばかり気になる
・気力続かず、部活は休みがち

母の入院

（夏休みの１か月）

〈田舎の祖母宅での生活〉
・携帯圏外
・六時起床
・畑仕事
・しっかり朝食
・祖母と料理作り
・十時就寝

《祖母の教え》
・旬のものの良さ
・和食の良さ
『マゴワヤサシイ』

「五年後、十年後の体を作るために今の食事がある。」

・充実感
・イライラ消える
・ニキビもなくなる

〈これからの生活は？〉
「今度は私がお母さんに…」
（決意）

評価の観点

○健康な生活のために大切なことは何であるか考えを深めることができたか。
○自分自身の食生活や生活習慣を振り返り，改善策を考えることができたか。

展開のポイント：ミキの生活の問題点を話し合うことで，自己の生活に問題意識と改善への意欲をもたせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　自分の生活を振り返り，問題意識をもつ。	
健康な生活のために，あなたはどのようなことに気を付けているか。また，健康に悪いと思っているのはどのようなことか。	
2　本文を読んで，ミキの不調の原因を考える。	○自由に話し合わせ，発表し合う。
ミキはどうして勉強や部活がうまくいかないのだろう。	
3　健康な生活を送るために必要なことは何かを考える。	●ミキの不調の原因や問題は，メールやゲーム漬け，夜更かし，朝食抜き，偏った食事等の，乱れた生活にあることを確認する。
健康な生活を送るために大切なのはどのようなことだと思うか。	
	○本文の内容や経験，他からの情報をもとに，健康な生活を送るために大切なことを小グループで話し合わせ，全体で発表させる。（ホワイトボードを利用する。） ○本文からは，早寝早起き，手伝いをすること，規則正しい生活をすることや，旬の食材，発酵食品を初めとする伝統的な食材を食べることが気持ちを充実させ，体調を整えるということを読み取らせる。 ●食生活とその他の内容に分類して板書し，「健康な生活に必要なこと」を可視化する。
4　学習したことから自分を振り返り，健康な生活について考える。	
これまでの自分の食生活や生活習慣を振り返り，改めなければならないことを書き出そう。そして，その中から改善することを２つ決め，その改善策を考えて書こう。	
	○改善点を絞ることで，実行に移す決意をもたせる。

3	教材名 「小さな大エース」と呼ばれた挑戦者	主題名 向上心	Ａ－（３）
ねらい	ひたむきに努力することの大切さに気付き，自己を見つめ，自己の向上を図ろうとする。		

指導内容について

生徒について

将来の夢や学校生活における目標を見つけられず，何事に対しても，受け身になって行動したり，他者と迎合したりする生徒は少なくない。そのため自分自身を振り返る機会や，自己の向上を図る方法を見いだせずにいる。

主題について

山下美弥子の生き方に触れ，挑戦することの意味について考えさせる。そこから自分自身を振り返り，自己の向上のためによりよい方策を考える重要性に気付くことで，自身の理想の実現に向けて意欲をもたせていきたい。

他の教育活動との関連

３年生が引退し，２年生が中心となって活動するときの部活動指導や，進路指導で生かす。

教材について

展開の工夫

・教材を分割提示し，山下さんの選択（地方チームから本社チームへ異動するか否か）について話し合わせる。山下さんが選択したのはどちらかを，山下さんの生き方から自由に考えさせ，山下さんの人柄をイメージさせる。
・教材を最後まで読み，山下さんの活躍の裏には目標に向かって粘り強く練習に取り組む強い意志やひたむきな努力があることに気付かせたい。

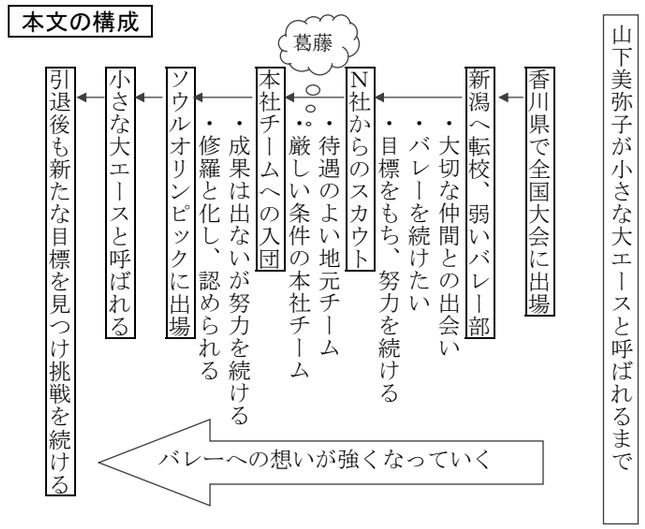
教材解説＜あらすじ＞

・山下美弥子は，中学校２年生まで香川県で過ごす。バレーボール部に所属し，全国大会に出場した。中３の春に新潟県へ引っ越すことになり，転校先の中学校と高校でもバレーボールを続け，その本当の魅力に気付く。高校卒業後は実業団に入ったが，身長の低さからアタックを打たせてもらえない。決してあきらめることなく努力を続ける山下美弥子はその後オリンピックに出場し，小さな大エースと呼ばれることとなる。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○山下美弥子の生き方に共感し，目標に向かってひたむきに努力することの素晴らしさを感じ取ることができたか。
○目標の実現に向けて努力を積み重ねることの大切さに気付き，実践への意欲をもつことができたか。

展開のポイント：本文を分割して読み，山下さんの生き方について話し合うことで，「挑戦し続けること」の意味について考えさせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　部活動で自分が大切にしていることを確認する。	
あなたが部活動で大切だと思っている考えや行動はどのようなことか。	
2　本文の初め～「山下は悩んだ」までを読み，山下さんの生き方について考える。	○自由に発表させ，授業への関心を高める。
中学・高校時代のバレー部で，山下さんが大切にしていたのはどのようなことだろう。	
	●中学校では仲間の大切さを知り，高校では仲間とともに目標をもって取り組んでいたことを確認する。
山下さんは待遇のよい地方チームと本社の強豪チームのどちらを選んだと思うか。	
・ワークシートに記入後，グループで意見を交換する。	○多方面からの考え方があることに気付き，認め合う。 ●発言するときは選択の理由をはっきり述べさせる。 【地方】・仲間が大切，レギュラーとして活躍できる 【本社】・高いレベルでプレーできる，可能性を試せる ●どちらの選択でも，「山下さんが大切だと考えていたことが生かせる」という理由が述べられればよい。
3　後半を読んで，山下さんが最も大切にしていたものが「挑戦すること」であることを理解する。	
山下さんが本社チームへの入社を選んだのはなぜだろう。	
	○「小さな大エース」と呼ばれるまでになった山下さんには，常に「挑戦し続けること」への情熱があったことを，上記の話し合いの「選択の理由」や本文後半の山下さんの様子から明らかにさせる。
4　授業を振り返り，ひたむきに努力することの大切さを考える。	
山下さんの生き方から，あなたが学んだことや考えたことを書こう。	
・ワークシートに記入する。	●本社に入団することを決めた山下さんの心情や「修羅」のようだと言われた山下さんの努力に触れたり，「自分の可能性に挑戦しよう」というメッセージの意味等を考えたものとなっていればよい。 ○数名の生徒に発表させる。山下さんのどの言葉や行動からそう感じたのかも明らかにさせる。

4	教材名 剱岳に魅せられて	主題名 強い意志	Ａ－（４）
ねらい	より高い目標を設定し，その達成を目指し，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする。		

指導内容について

生徒について

人は，社会の中のいろいろな場面で役割を分担しながら責任を果たしていることは知っている。また，中学生は，自分の好きなことや価値を認めたものに対しては意欲的に取り組むことができる。しかし，その場限りの責任という認識で行動したり，失敗や困難に直面し簡単に挫折し物事をあきらめてしまったりする傾向がある。

主題について

生活の中で具体的な目標を設定し，その実現に向けて努力してきた経験を想起させ，目標の達成には何が必要かを考えたり，自己評価させたりすることが大切である。そして，困難を乗り越える意思をもたせ，克服のための自分なりの方法を考えさせたい。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」などに実施している学習活動や，日常における自分の果たすべき役割，実際に自分の役割をどのように感じているか。登山や自然教室での行動も想起させたい。

教材について

展開の工夫

・山岳警備隊に志願した一警察官が幾度もの遭難現場での救助活動を経験していく中で，自分の仕事への情熱と使命感をますます強いものにしている。家族の「そんな得にもならないことを，どうして続けられるのか」という言葉をキーワードとして着目させると，より深まりある展開が期待できる。

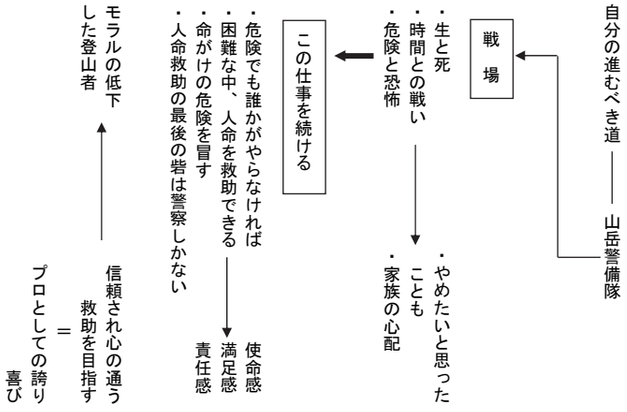
教材解説＜あらすじ＞

・山岳警備隊員である筆者は「戦場のような」現場で救助活動を行っている。自分の仕事に誠実，かつ果敢に挑む姿を通して，人生における生きがいや喜びを描く。

出典・その他

谷口凱夫『けんせつほくりく』平成９年２月号 社団法人北陸建設弘済会

本文の構成



評価の観点

○「ときにはやめたい」と思いながらも，自分の仕事に使命感をもち，満足感や達成感を得ている筆者の気持ちと，そう思う背景を捉えることができたか。

○困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げることへの大切さに気付き，実践への意欲を高めることができたか。

展開のポイント：筆者の仕事に対する充実感や人間としての誇りについて，個々でじっくり考える場面と班で考えを交流する場面を設け，学びを深める。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　強い意志について考える。 周りに，こだわりをもって仕事をしている人はいるか。また，情熱をもって仕事に携わっている人をどう思うか。	
2　本文を読み，筆者の思いについて考える。 家族が話す，「そんな得にもならないこと」をなぜ筆者は続けるのだろうか。	
	○本文を読み，じっくりと考え，付箋に自分の考えを書かせる。 ○順番に付箋を紙に貼り出していき，班で考えを交流させ，たくさんの考えに触れさせる。 ●下界で普通のおまわりさんをしていれば十分使命は果たせるのになぜあえてこの道を選んだのか。 ●家族の心配や時にはやめたいという気持ちを押して自分の仕事に使命感をもって挑み，満足感や達成感を得ていることを理解させる。
3　筆者から学ぶことをまとめる。 強い意志とはどのようなものか。	
・考えを全体で共有し，さらに自分の考えを深めるようにする。	○導入部分の発問と絡めて，自分の経験なども参考にしながら，自分のこととして捉えさせる。 ・個の考えを付箋にまとめ，班で意見を共有する。貼り出した付箋を考えごとにまとめ，ラベリングする ⇒構造化 ・各班で出た考えを提示しながら全体で共有する ⇒可視化
4　授業を通して考えたこと，感じたことをまとめる。 筆者の生き方からあなたが学んだことや考えたことを書こう。	
	○話し合いや全体での発表で共有したことを参考に，授業を振り返ったり，自分の考えをまとめたりする。

5	教材名 目の不自由な人に 教育の光を――大森隆碩――	主題名 希望と勇気， 強い意志	A－（4）
ねらい	目標の達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする態度を育てる。		

指導内容について

生徒について

中学生の段階では，自分の好むことや価値を認めたものに対しては意欲的に取り組む態度が育ってくる。

しかし，理想どおりにいかない現実に悩み苦しみ簡単にあきらめてしまったり，挫折や失敗を回避するために安易な選択をしてしまったりすることもある。目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが大切であると実感させ，乗り越えるための自分なりの方法について考えさせることが重要である。

主題について

目標や希望を設定し，その達成を目指すことは日々の生活や人生を充実させる。そのためには，困難や失敗があっても，それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。また，着実にやり遂げるためには，自分自身の弱さに打ち勝ち，一つの目標に向けて計画的に実行していくことが必要である。人生の理想や目標を達成しようとする強い意志を養い，生きることへの希望を育みたい。

他の教育活動との関連

進路指導等における目標の実現，「総合的な学習の時間」におけるボランティア活動や交流活動など

教材について

展開の工夫

・自分の目が見えなくなった場合の心情や生活を想像させながら，本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
・自らも失明状態になりながら，教育の重要性に気付き，多くの困難を乗り越えて盲学校を設立した隆碩の生き方について考えさせる。

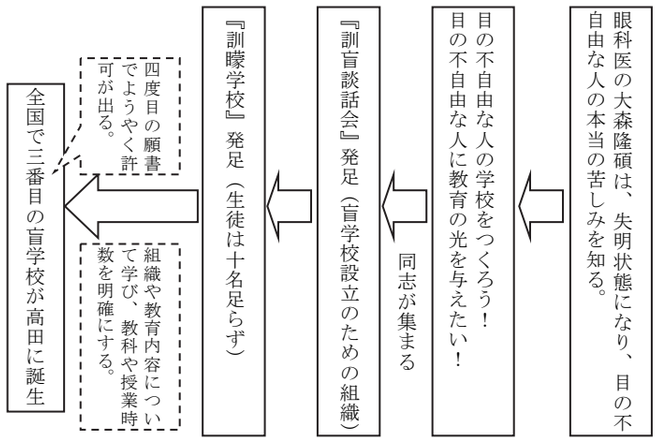
教材解説＜あらすじ＞

・様々な困難にも負けずに，盲学校を全国に先駆けて創設するまでの大森隆碩の生き方を描いたものである。
・失明寸前の状況に陥った大森隆碩は，その経験の中から視覚障害者に対する学校教育の必要性を痛感し，視覚障害者の社会的自立を促す手段として全国で３番目の盲学校を新潟県高田の地に誕生させたのであった。

出典・その他

『生命の詩』新潟県教育委員会
（「新潟県人物群像５究」新潟日報事業社）

本文の構成



評価の観点

○失明状態になった隆碩の気持ちを理解し，苦労して盲学校を設立した隆碩の生き方に共感することができたか。
○困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げることの大切さに気付き，実践への意欲を高めることができたか。

展開のポイント：登場人物に自我関与させながら，強い意志をもって着実にやり遂げることの大切さを理解させる。また，目標を実現させるための姿勢や考え方などについて，他との交流を通して学びを深める。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　自分の目が見えなくなったとしたらどんな点で困るか考える。	●目が見えなくなった場合の心情や生活を想像させ，不便さに気付かせる。
自分の目が見えなくなったら，どのような点で困ると思うか。	
2　本文を読み，隆碩の苦しみに気付く。	
隆碩自身が失明状態になったとき，どのようなことに気付いたか。	
3　自分の経験から教育の重要性に気付き，多くの困難を乗り越えて盲学校を設立した隆碩の生き方について考える。	●隆碩自身が，目が不自由な人の本当の苦しみや悩みに気付いた点をおさえる。 ・目が不自由な人の本当の大変さ ・目が回復しないのではないかという恐怖心 ・字が読めない辛さ ・今までは目が不自由な人の生き方を支えることができていなかったということ
隆碩は，なぜ盲学校をつくろうと思ったのか。	
	●「目の不自由な人に光を与えたい」という言葉の意味をおさえる。 ・目の不自由な人には，教育が必要だということに気が付いたから ・目の不自由な人に希望を与えたいと思ったから ●この発問で出てきた答えを中心発問につなげる。
なぜ隆碩は困難に負けずに盲学校設立を実現することができたのか。	
	○グループでの意見交換を通して，隆碩の心情を理解し，ねらいに迫る。 ・目の不自由な人が独立するために教育が必要だという強い意志 ・目の不自由な人の本当の苦しみ ・『訓瞽学校』で学びたい生徒がいたという喜び ・同じ志をもつ仲間の支え ・目の不自由な人の能力を伸ばせるような新しい世界をつくりたいという情熱 ●困難や失敗を乗り越えるために，強い意志があったことをおさえる。
4　隆碩の生き方から学んだことや今後に生かしていきたいことについて，自分の考えをまとめる。	
今日の授業であなたが学んだことや考えたことを書こう。	

6	教材名 カラフトは離島なり ――松田伝十郎の発見――	主題名 真理の探究	Ａ－（５）
ねらい	「知りたい」という欲求が行動の原動力となり，勇気や希望，意欲を生み出すことに気付くとともに「真理を探究」することへの考えを深める。		

指導内容について

生徒について

真実を知りたいという思いは誰もがもつものである。「なぜだろう」「どうなっているのだろう」と，観察したり調べたりして，知る喜びを味わった経験をもつ生徒も多いだろう。しかし，情報があふれ，それをすぐに手に入れることのできる現代では，疑問を探究するために粘り強く努力したり，やり通したりした体験は少なくなってきているのではないだろうか。そのような状況の生徒たちが，伝十郎の実直な生き方に触れ，素直に感動することは意味のあることであろう。そこから，困難に屈することなく真理を探究することの尊さを感じさせたい。

主題について

未知なるものの真実を明らかにすることは，人々に多大な恩恵を与えてきた。しかし，真理の探究は，目標達成へのひたむきな思いと困難に打ち克つ努力なしにはなし得ない。探究を阻むものを乗り越えて得られる真理は尊いものであり，そこからさらに派生する事実や真実もまた有用である。伝十郎の人生はそれを具現化したものであった。伝十郎の生き方を通して，人間にとって真理の探究とは何かを考えさせたい。

他の教育活動との関連

各教科の調べ学習や課題解決学習，「総合的な学習の時間」における課題の探究

教材について

展開の工夫

- 昔の研究者や探検家の探究の功績が今の常識をつくっていることに着目させる。
- 過酷な環境でも最後まで探索を止めず，任務を全うした主人公の理由に迫る。最後に「カラフトは離島なり」と声高らかに叫んだときや，「日本国境」の標柱を立てたときの気持ちも考えさせる。
- 歴史や地理の知識を伝える時間にならないように気を付ける。

教材解説＜あらすじ＞

1769年，現柏崎市米山町で生まれた伝十郎は，幼くして父を亡くして母親の手によって育てられる。13歳で江戸に渡り，努力のかいあって20歳で松田家の養子となる。

当時，蝦夷地で幕府の役人として活躍していた伝十郎は，カラフト探検を命じられ，間宮林蔵とともに東西に分かれて探検に出発する。これはカラフトの地形を明らかにし，また，ロシアの動きを知るためでもあった。

約２か月後，苦難の末にたどりついたノテトという地で，カラフトが大陸続きでないことを確認した伝十郎は「カラフトは離島なり」と声高らかに叫ぶ。

出典・その他『生命の詩』新潟県教育委員会

本文の構成

一八〇八年（江戸時代末）伝十郎（四十歳）、カラフト探検へ出発

交錯

喜び……「広い世界を知りたい。大きな視野を持つ人間になりたい。」という子どものころからの夢がかなう。

不安……前人未踏の地を行かなければならない。

不遇の中でも努力と精進を続ける伝十郎

- 一七六九年、旧米山町で町人の子として誕生
- 四歳　父を亡くす
- 十三歳　江戸に出る
- 二十歳　旗本松田伝十郎の養子となる
- 四十歳　「伝十郎」を襲名

一八〇八年五月　幕府の命を受け、間宮林蔵とともにカラフトへ

カラフト探検の目的

- カラフトの地形と山粗との境を知る。
- 開国を迫るロシアの動きを知る。

間宮林蔵　東海岸隊
松田伝十郎　西海岸隊

カラフトが島ならば、どこかで会う。

一八〇八年六月、一か月半かけて西海岸の北方ラッカ岬にたどり着く

数々の困難
はげしい風雨、進まぬ航海、乏しい食料、案内人も未知の土地

↓

探検心と使命感に燃え、北上を続ける。

↓

村人の話から、カラフトが離島であることを確信し、「カラフトは離島なり。」と、声高らかに叫ぶ。

評価の観点

○厳しい条件や環境の中で，探索を継続することができたのは，「真実を明らかにしたい」という思いからであることが理解できたか。

○真実を明らかにすることの意義を感じ，自らの生き方の参考にすることができたか。

展開のポイント：主人公に自我関与させながら，他との交流を通して真理の探究について考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　「地球は丸い」「世界や日本の形」は誰が発見したのか，どうやって調べたのかを知る。	○今はあたり前のことが，昔の人が探究してわかったことだということを知ることで，興味や関心をもたせる。
「地球が丸いこと」や「世界の国々や日本の形」は誰がどうやって発見したのだろうか。	
2　教材を読み，松田伝十郎の偉業を理解する。	○インターネットや衛星などの技術が発達していない江戸時代に自分の足で探索した人たちがいることを伝える。
カラフトが島だということを発見した人はどのような人か，考えてみよう。	
・主人公の生い立ちを理解する。 ・探索することになった経緯を理解する。 ・カラフトの位置を知る。 ・時代や地理的な面から探索の過酷さを理解する。	○教材を読み，「カラフト」が島だということを発見した主人公のことを理解させる。
3　厳しい条件や環境の中で，探索を継続した理由を考える。	○探究し続けた意味や理由について，グループで意見を出し合い，主人公の思いについて理解を深めさせる。
どうして過酷な中での探索を途中でやめなかったのだろうか。	
・グループで意見交換をして，主人公の思いを理解しながら，ねらいに迫る。	●探索をやめなかった背景を考えさせる。 ・未知なる土地を知りたい，見たいという強い気持ち ・家族や恩師への思い ・日本の歴史的背景や情勢 ・仲間の存在 ・地域住民の協力や思い
4　カラフトが大陸につながっていないことを知ったときの主人公の思いを理解する。	
主人公はどのような思いで「カラフトは離島なり」と声高らかに叫んだのだろうか。	
	●「日本国境」と書いた標柱を打ち立てた気持ちについても考えさせる。
5　今日の学習で考えたことをまとめる。	
今日の授業であなたが学んだことや考えたことを書こう。	

7	教材名 月明かりで見送った夜汽車	主題名 思いやり	Ｂ－（６）
ねらい	人間愛の精神を深め，他の人に対して温かい思いやりの心をもつ。		

指導内容について

生徒について

中学生の時期には，人間としての生き方について関心が高まり，他の人との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし，多感な時期にある中学生は施すよりも求める心が強く，他を省みない行動に走る場合も多い。思いやりは人との関わりの中で欠かすことのできない心であることに気付き，自分も他の人もかけがえのない人間であるという自覚をもつことが大切である。

主題について

思いやりの心とは，相手の立場を尊重し，相手にとってどのようなことが望ましいかを考えて行動することである。したがって，その根底には人間に対する深い理解と共感が必要となる。この教材を通して，支え合うことのすばらしさや他の人を思いやる心の美しさに気付かせ，実践意欲を引き出す。

他の教育活動との関連

生徒会活動，「総合的な学習の時間」におけるボランティア活動など

教材について

展開の工夫

・教材を途中で止めながら，場面の状況把握や登場人物の気持ちを考えさせる。
・生徒との対話を通して主題に迫る。その際，思いやりの心について深く考えさせるような切り返し発問を行う。
・様々な立場の心情を共感的に読み取らせながら，思いやりの心に支えられた人間関係や生き方の素晴らしさに気付かせる。

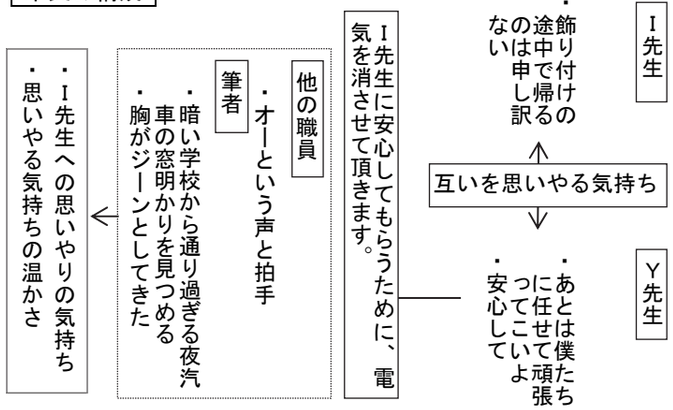
教材解説＜あらすじ＞

・翌日の文化祭のため，職員総がかりで準備を進めている。午後８時を過ぎたころ，Ｉ先生は国体へ参加するため，仕事を途中で抜けて夜汽車に乗る。学校の脇を通る線路に夜汽車がさしかかろうという時間，学校のブレーカーが落とされ，校内は真っ暗になり，職員全員が月明かりの中を行く夜汽車を見送る。
・仕事を途中で抜けなければならなかったＩ先生を安心させようとする温かい気持ちが，読む人の心にぬくもりを与えてくれる教材である。

出典・その他

武藤治枝　『生きる』ＰＨＰ研究所

本文の構成



評価の観点

○Ｙ先生や職員の言動の素晴らしさや思いやりの心を感じることができたか。
○人間愛の精神を深め，他の人に対して温かい思いやりの気持ちをもって接しようとする意欲が高まったか。

展開のポイント：再現構成法的に場面を区切り，登場人物への自我関与をもとに，思いやりについて多面的・多角的に考えていく。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　人と人との間にはたらく，思いやりの気持ちを考える。	○授業で学習する内容を明らかにする。
2　Ｙ先生の気持ちを考える。（Ｙ先生への自我関与） ・範読を聞き，途中（「学校の脇を通過するのです」）で考える。	●昭和42年頃の高田付近の環境や，夜明かりがついている校舎の見え方などを話題にする。
Ｉ先生を送り出したＹ先生の気持ちを考えよう。	
3　多様な思いやりについて考える。 ・「出かけられたと思います。」で止め，多様な思いやりについて考える。	●場面把握のため，飾り付けが途中でも行かなければならないＩ先生の気持ちや他者の気持ちをなどを考える。
この話の中には，どのような思いやりがあるか。	
4　最後まで範読を聞き，テーマについて個々の考えをまとめる。	●発問をきっかけにして，思いやりについて話し合う。いろいろな登場人物の思いやりの心が表れるように配慮する。 ・Ｙ先生からＩ先生への思いやり，Ｉ先生がなかなか出られなかった周囲への思いやり，校内にいた人全員のＩ先生への思いやりなど
夜汽車が通ったのを見て，胸がジーンとしたのはなぜか。	
5　授業で考えたことを，その後の日常生活に生かしていく。	○ワークシートなどを活用する。
思いやりについて，自分の日常生活で心がけるべきことは何か。	
	○発言または，ワークシートへの記述。

8	教材名 荷　　物	主題名 礼儀	B-(7)・B-(6)
ねらい	相手の心に訴える言葉と，それを素直に受け取ることができる心から，本当の触れ合いが生まれることに気付く。		

指導内容について

生徒について

言葉の乱れが指摘されている昨今，生徒が日常用いる言葉の乱暴さは，社会問題として取り上げられている。また，社会生活においてコミュニケーションが不足するとともに，単語の羅列が目立ち，自分の考えや意思を適切に表現することが苦手である。言葉のもつ大きな力と，その役割について考えを深めさせることが必要である。

主題について

人と人との触れ合いには言葉が大きな役割を果たしていることを認識させ，人が口にする言葉は，必ずその人の人格が表れるものだということを理解させる。また，人の心を動かす言葉とは，どんな心遣いから生み出されるものなのか，考えを深めさせる。さらに，人の言葉を素直に受け止めることが，自分を高めることにつながることについて考え，言葉を発する側，受け取る側，双方がもたなければならない姿勢について不断に注意する態度を養いたい。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」等で実施されている職場体験学習やボランティア活動

教材について

展開の工夫

・おばあさんの言葉がなぜこれほどまで運転手の心を打ったのかを考えさせる。
・おばあさんの言葉を素直に受け止めることができた運転手の人間性についてじっくり考えさせる。

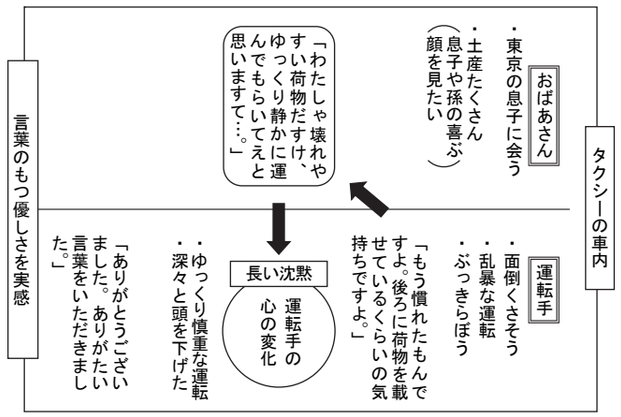
教材解説＜あらすじ＞

・タクシーのベテラン運転手の乱暴な運転を，「私は壊れやすい荷物です」と優しくユーモアをもってさとすおばあさんの小話である。おばあさんの優しい人柄が言葉に表れている。また，おばあさんの言葉を素直に受け止めたタクシーの運転手の人間性にも感動を覚える。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○おばあさんの言葉が，運転手にとってどんなに大きなものだったか，気付くことができたか。
○相手の心に訴える言葉と素直に受け止める態度から，本当の触れ合いが生まれることに気付いたか。

展開のポイント：運転手の気持ちに自我関与させることで，礼儀の意義を理解し，適切な言動をとることの大切さに気付かせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　挨拶や丁寧な言葉遣い，態度等を受けて，気持ちがいいと思ったり，うれしいと思ったりしたことを思い出す。 2　本文前半を読んで，「運転手」と「おばあさん」の状況や気持ちについて考える。	●本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
「運転手」と「おばあさん」はどのような人だと思うか。	
3　本文後半を読んで，相手を思いやる言葉とそれを素直に受け止める大切さについて考える。	●両者の言動を具体的に確認しながら，２人の人柄について考えさせる。 【運転手】・面倒くさがり　・ぶっきらぼう 【おばあさん】・相手の気持ちを考える
長い沈黙の間，運転手はどのようなことを考えていたのか。	
	○運転手の気持ちになって考えさせる。 ●相手の指摘を素直に受け入れる心があった運転手だからこそ，沈黙したということをおさえる。
どうして運転手は「ありがとうございました」と言ったのか。	
4　おばあさんと運転手の素晴らしさに気付き，これからの生活について考える。	●おばあさんに何を教えてもらったのか，気付かせてもらったのかという点をおさえる。 ○自分の考えをもち，意見交流する。 ●他者の意見を通して自分が高まるような意見交流をする。
今日の授業を通して，学んだことや考えたことを書こう。	
	○本時の学習を通して，自分自身の問題として捉えさせる。

9	教材名 行かなかったサイクリング	主題名 友情	Ｂ－（８）
ねらい	友情を育てるには，相手の立場や気持ちを考えて行動することが大切であることに気付く。		

指導内容について

生徒について

人は，一人では生きていけないことを頭の中では知っている。そして，心の底から話し合ったり，相談したりできる友人を得たいと願う気持ちも強まってくる。

中学生は，狭い視野で友達を選ぶこととなり，自分の都合のいい相手やその場限りの興味を満たしてくれる者を友達としがちである。また，そのようにして友達を選ぶと，とかく互いに自己中心的になりがちなので，友人関係で疲れたり悩んだりすることも多くなる。

主題について

ここでは，相手の立場や気持ちをよく理解して行動することの大切さや，思いやりの心をもちながら生活していくことの大切さを自覚させたい。それが安定した友人関係を築くことにつながり，結局は自身の心の安定につながることに気付かせたい。

他の教育活動との関連

仲間関係の在り方を振り返る学級活動等

教材について

展開の工夫

・修君と旧友との間で悩みながらも旧友との再会を優先させた「ぼく」の気持ち，いやみを言ってしまった修君の気持ちの双方に十分共感させたうえで，互いに何が足りなかったのかを考えさせる。

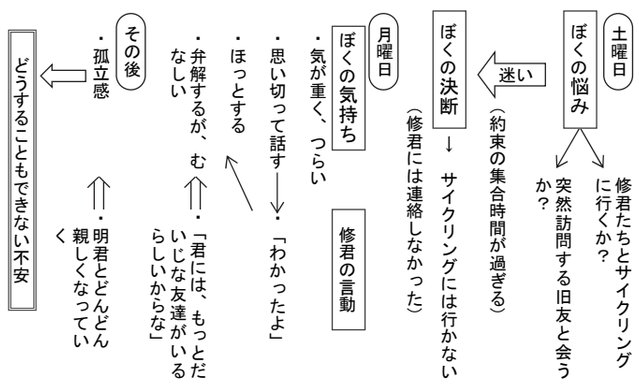
教材解説＜あらすじ＞

・修君たちとサイクリングの約束をしていたが，突然旧友が訪れることになり，どちらを優先すべきか迷う。結局，遠くから来る旧友を優先させ，後で事情を話せばわかってもらえると連絡もせずにサイクリングには行かなかった。しかし後日，修君からいやみを言われ，「ぼく」は孤立感を深めていく。

出典・その他

生徒作品

本文の構成



評価の観点

○「ぼく」と修君の双方に自己中心的な部分があったことに気付いたか。

○自分の友達に対する態度を振り返り，相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さに気付いたか。

展開のポイント：登場人物の行動について話し合うことで，課題を解決し，望ましい人間関係を築くためにどうあるべきか考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　友達について考える。	
友達がいることの良さを感じたことはあるか。それはどんなときか。	
2　本文前半（Ｐ33）を読み，「ぼく」の立場になって考える。	●友達がいることの良さを想起させながら，本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
自分が「ぼく」だったらどちらに行くか。理由も考えよう。	
3　本文後半（Ｐ34）を読み，修君の気持ちについて考える。	●「ぼく」の気持ちに寄り添い，自分のこととして考えさせる。 ○考えを発表させ，全体で共有する。
（約束を破られた）「修君」はどのような気持ちだったか。	
4　問題の解決にはどうしたらいいか，それぞれの立場から考え，話し合う。	●修君の気持ちに共感させる。 ・約束を破られて腹立たしい ・サイクリングを楽しみにしていたのに残念だ
このあと２人はどうしたらよい関係に戻れるか。「ぼく」と「修君」にアドバイスを送ろう。	
5　授業の振り返り	●問題解決のための具体的なアドバイスを考えさせる。また，双方の立場に立ち，望ましい行動の仕方について考えさせる。 ●立場は指定せず，時間を区切りながら両方の立場に立って考えさせる。 ○ホワイトボード等を活用し，話し合いの内容をまとめる。
友達と付き合ううえで大切にしたいことを書こう。	
	●相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さに気付かせる。

10	教材名 勝手にしろ	主題名 相互理解	Ｂ－（９）
ねらい	人それぞれの立場や考えを重んじ，自分と異なる意見も大切にし，協力する態度を培う。		

指導内容について

生徒について

互いのことを理解したり集団生活に慣れてきたりする時期になると，お互いに足を引っ張り合い，排斥し合う場面もみられるようになる。このような人間関係が続くと，生徒間に敵対関係が生まれたり，小グループに分裂し，亀裂が修復しがたい状況になったりすることもある。

主題について

人間関係におけるストレスをかかえないようにするには，生徒が忍耐力や協調性をもち，さらに望ましい人間関係を築くことが不可欠である。双方の悪いところではなく，長所に気付かせ，それを認め合う姿勢を育むことが大切である。

他の教育活動との関連

体育祭，音楽会，文化祭等の学校行事

教材について

展開の工夫

・団長と他のリーダーの立場や思いを理解したうえで，体育祭を成功させるためには，どのような解決策があるか，具体的な方法について話し合う。
・体育祭に限らず，集団内での意見の対立はよくあることであり，身近な問題として，互いの立場を理解し合い，学校生活全体で生かす工夫をする。

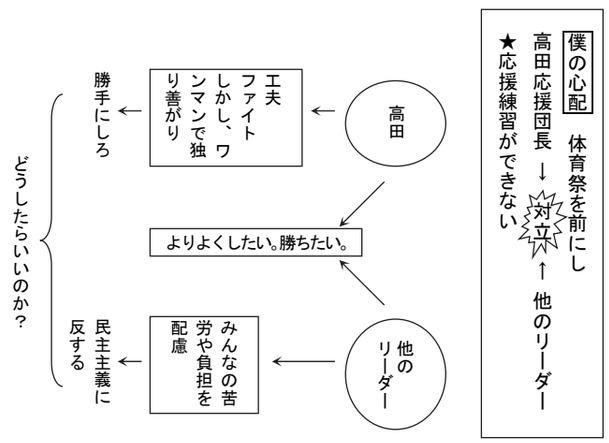
教材解説＜あらすじ＞

・体育祭を前にして，応援団長と他のリーダーが，応援歌の曲数や小道具をめぐって対立し，応援練習ができない。団長は工夫やファイトはあるがワンマン。他のリーダーが陰でそんな団長を批判したことが団長の耳に入って対立は決定的に。一体どうしたらよいのか。

出典・その他

生徒作品

本文の構成



評価の観点

○両者の長所を認めたうえで，互いの改めるべきところを具体的に指摘できたか。
○他者の個性や立場を尊重し，互いに認め合い協力し合うことの大切さに気付いたか。

展開のポイント：問題の改善策を話し合うことで，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，真の相互理解について考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　どんな体育祭が理想か，自分たちの生活をもとに考える。 2　本文を読み，登場人物の様子や問題の原因を考える。	●理想とする体育祭やリーダーについてイメージを広げる。
「高田さん」と「他のリーダー」はどのような人だと思うか。	
3「高田さん」と「他のリーダー」との対立を見て，「ぼく」が何を心配しているのかを把握する。	●直接的な原因を引き起こしている両者の内面や長所に着目して考えさせる。 【高田さん】・ファイトにあふれている　・厳しい ・ワンマン　・熱い　・工夫がある ・他の人の考えを受け入れない 【他のリーダー】・客観的 ・みんなのことを考える
「ぼく」は何を心配しているのか。	
4　問題の解決にはどのようなことが大切か，それぞれの立場から考え，話し合う。	○「ぼく」の不安に共感しながら，問題点を明らかにする。 ●広い視野で，体育祭全体に関わる問題点をおさえる。 ・応援練習が進まず，応援が完成しない ・応援練習の雰囲気が悪くなる
このあと，みんなはどのようにしていったらよいか。	
5　授業の振り返り	●問題解決のための最善策を「高田さん」「その他のリーダー」など，それぞれの立場から考えさせる。 ○みんなが「よりよくしたい」「勝ちたい」という思いがあることを理解したうえで，グループで解決策を考える。 ●出てきた策をわかりやすく板書して整理する。
これからの生活で生かしていこうと思うことを書こう。	
	●意見の対立は必ずあるものだということを理解させ，そこからどうするか，どうできるかが大切であることをおさえる。

11	教材名 「しかし」の壁	主題名 寛容	Ｂ－（９）
ねらい	相手の立場に立ってものを考え，他人の言葉に謙虚に耳を傾けることの大切さに気付く。		

指導内容について

生徒について

集団で活動する学校生活の中では，自分の意見を求められたり，自分の意見が反映されたりする場面も多い。そのようなとき，自分を認めて欲しいがために，自己の主張を押し通し，対人関係の悪化を招くことがある。

主題について

他との関わりにおいて，それぞれの個性や立場を尊重し，謙虚に受け入れることは大切である。相手の言葉を謙虚に受け入れることで，自分の成長につなげる。

他の教育活動との関連

修学旅行実行委員会，体育祭実行委員会，文化祭・合唱実行委員会などの運営場面

教材について

展開の工夫

・青木君の言動や心情を考えさせながら，自分の言動について振り返らせる。
・「しかし」によって，互いにどんな気持ちになるかを役割演技で考えてもよい。

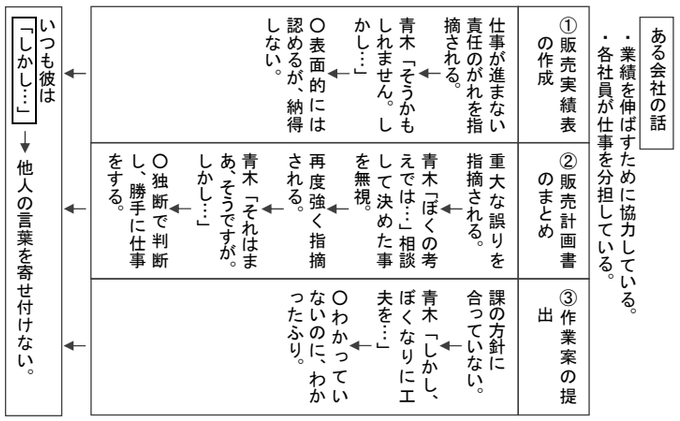
教材解説＜あらすじ＞

・営業課の青木君は，販売実績表の作成，販売計画書のまとめ，作業案の提出などの仕事に関わるたびに上司や同僚から落ち度を指摘される。彼は，素直にそれを認めることをせず，常に「しかし，…。」と自己主張し，他人の言葉や意見を寄せ付けないでいる。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○相手の立場に立つことや謙虚に他の意見を受け入れることの大切さに気付いたか。

展開のポイント：青木君の言動や改めるべき点についてグループで話し合い，これからの自分自身の言動や姿勢について考えを深める。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　日頃の生活や物事に対する自分の姿勢を考える。	●自分自身を客観的に振り返る。
あなたは，人から意見や間違いの指摘を受けたとき，どのような受け答えをしているか。	
2　本文を読み，青木君の言動や姿勢の改めるべき点を見つける。	
青木君の言動や姿勢の改めるべき点について見つけよう。	
・改めるべき点を探す（個人） ・改めるべき点を話し合う（グループ）	○グループで互いに話し合える環境をつくる。 ●青木君の「しかし」のパターンを示す。 ・他の人の話を聞かない ・方針を理解していない
3　改めるべき問題点からこれからの自分のとるべき姿勢や対応のしかたを考える。	○問題点を付箋に書き出す。 ○書き出した問題点をグループ内で発表し，改めるべき点をグループ化する。
青木君の「しかし」の壁は何だろう？	
	・体裁をつくろう気持ち ・間違いを認めたくない ・自分は正しいと思う気持ち ・素直に人の助言を受け入れられない性格 ・「しかし」といってしまうくせ ●主人公の言動を自分の立場に置き換えて考えを深める。 ○互いに相手の気を付けるべきところを出し合える場もあってよい。 ○「だって」「でも」という言葉に置き換えて考えさせてもよい。役割演技を取り入れてもよい。
4　授業の振り返り	
これからの自分自身の言動や姿勢について，どのようなことに気を付ければよいか書こう。	
	●この時間をしっかり確保する。

12	教材名 アイドルグループ○○　極秘路上ライブ!	主題名 公徳心(情報モラル)	C－(10)
ねらい	情報の扱い方を考えさせる中で，情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる。		

指導内容について

生徒について

情報社会の中で，ほとんどの生徒の家庭のコンピュータがインターネットに接続されている。また，自分の携帯端末を所有している生徒も少なくない。ほしい情報を誰もが手に入れられ，誰もが情報の発信者となることができて便利な反面，それに関連した事件やトラブルも起きている。中学生でも不当な料金の請求を受けたり，人間関係のトラブルに発展したりすることがある。

主題について

情報の発信のしかたを含め，正しい情報の扱い方を理解させ，情報モラルを守って安全な社会をつくっていくという気持ちをもたせたい。

他の教育活動との関連

技術・家庭における情報モラル

教材について

展開の工夫

・主人公の行動から，ＳＮＳによる情報の特色を確認し，適切な利用のしかたについて考えさせる。
・主人公がＳＮＳのやりとりにのめり込み，日常生活に影響が出たり，友人との通信の内容が過激になっていったりした点についても触れ，情報の取り扱い方についても考えさせる。

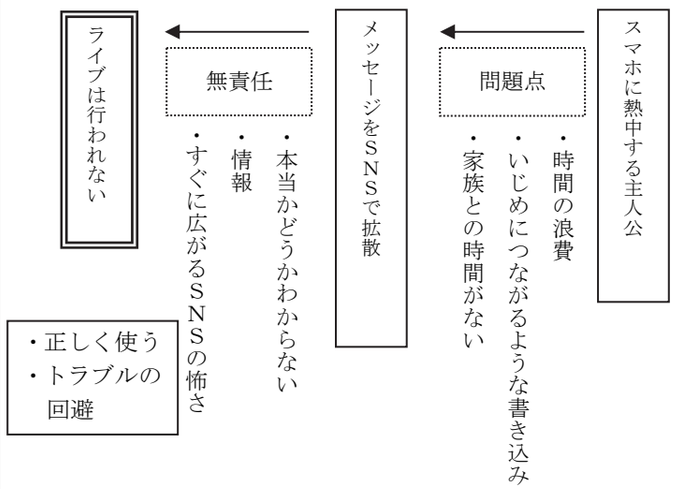
教材解説＜あらすじ＞

・スマホに熱中している主人公にある日，アイドルが路上ライブをするというメッセージが入る。信頼できる情報かどうか迷うが，軽い気持ちで友達にその情報を伝える。結果，当日大勢の人が…。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○安易な情報伝達が，多くの人を巻き込み，迷惑をかけるということに気付くことができたか。
○ＳＮＳ等の特性を理解し，適切な利用のしかたを考えることができたか。

展開のポイント：ＳＮＳでの２人のやりとりや安易に情報を流すことの問題点についてグループで話し合い，望ましい情報モラルを身に付ける。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　ＳＮＳについて考える。	
ＳＮＳ利用のよい点について考えよう。	
	○ＳＮＳ利用のよい点を挙げてもらう。 ・いつでも連絡が取れる　・たくさんの情報が得られる ・たくさんの人と知り合いになれる
2　本文を読んで主人公の問題点を指摘する。	
主人公のどのような点が問題なのか。 ①前半部（～P41.ℓ7）　②後半部（P41.ℓ9～）	
	○２つの場面（２人のやり取り，安易に情報を流すこと）から問題点を個人で考える。 ○書き出した問題点をグループ内で発表し，グループ内で改めるべき点を話し合う。 ●拡散した内容だけでなく，日々の仲間とのやり取りについて考えさせるのもよい。（挿絵の内容から） ・日々のやり取りで，仲間に対する悪口 ・相手の質問に対する返信のしかた
3　主人公のとるべきだった行動から情報の適切な利用について考える。	
情報を適切に扱うために，圭子は，それぞれの場面についてどのような返信や行動が必要だっただろう。	
	●相手（里美）のメッセージに対して行った行動だけでなく，日々のやり取り（綾とのやり取り）についても適切な返信方法を考えさせたい。 ●教師が代表例を示し（「あんなやつ，あいてにしないほうがいいよ」），受け取った相手がどう受け止めるかをワークシートに書かせ，考え方の相違に着目させる。 ○相手に対して誤解を生まない言葉を考えさせる。 ○個人だけでなく，グループ内で，ＳＮＳの適切な利用について考えさせる。 ○授業を通して適切な情報の扱い方について考えさせる。 ・情報をすべて信じない　・未確認情報は流さない ・一度発信した情報は簡単には訂正できない
4　授業の振り返り	
ＳＮＳやネットの使い方を振り返り，今日の授業で学んだことや考えたことを書こう。	
	●今後の自分自身のＳＮＳなどの使い方についての決意をまとめさせるのもよい。

13	教材名 豊かなれ阿賀の流れよ ～新潟水俣病の苦悩をこえて～	主題名 差別や偏見のない社会	C－(11)
ねらい	新潟水俣病の原因などの具体的な状況について理解を深め，新潟水俣病患者の心身の苦悩を共感的に捉えることを通して，差別や偏見のない公正，公平な社会の実現に努めようとする気持ちを高める。		

指導内容について

生徒について

中学生になると社会の在り方について目を向け，差別や偏見に対する問題意識をもち始める。しかし，他人より自分を優位に見せたがったり，立場の弱いものに対して横柄な態度をとったり，また，人の噂や不確かな情報で相手を捉え，傷付けたりすることがある。このような生徒にとって学校生活や社会における差別的な問題や様々な偏見について考える機会をもつことは大切である。

主題について

よりよい人間関係や社会生活を築いていくうえで，一人ひとりが人間として，個人として尊重されなければならない。立場や考えの違い，個人の意思を超えた人種や性別，容姿，そして病気などによって不公正な差別や偏見があってはならない。また，不確かな情報や噂などによって人を傷付けることがあってはならない。人の痛みに気付き，正しい理解に立って，差別や偏見のない公正，公平な社会を築いていこうとする気持ちを育てていきたい。

他の教育活動との関連

社会科（公民的分野）「公害」，保健体育「健康と環境」
いじめ根絶の活動，人権教育，同和教育

教材について

展開の工夫

・新潟で発生した公害病である新潟水俣病について，原因やその影響を正しく理解させる。
・患者の苦しみは病気に加え，差別や偏見であったことを理解させる。
・新潟水俣病が個人の生き方や地域社会の信頼関係に与えたダメージを捉えさせる。
※「生きるⅣ」「生きるⅢ」（新潟県同和教育研究会）を参考資料にするのもよい。

教材解説＜あらすじ＞

・流域の人たちにとって安らぎと生活の場になっていた阿賀野川は，上流の昭和電工鹿瀬工場から出された有機水銀を含む排水によって汚染されてしまう。そして，汚染された魚を食べた人たちが発症していった。佐和子の父は差別や偏見を恐れ，病気になったことを隠そうとする。腕のいい建具職人だった父は，病気によって思うようなものができなくなったことに苦悩する。やがて，父も生きるため，そして自分がどうしてこんな状態になったかをはっきりさせるため認定を求める。患者は病気になったことに加え，言われなき差別や偏見に苦しむ。

出典・その他

和泉哲章　作
（参考文献）『未来に語りついで』（新潟県）
『新潟水俣病のあらまし』（新潟県）

本文の構成

父や被害者の苦悩
〈父のいらだち〉
・病気になり仕事ができなくなる
〈差別・偏見〉
・「タタリ」や伝染病
・結婚や就職での差別
水俣病と認定されても
・「補償金をほしがっている」
・「ニセ患者」と言われる

家族の支え
母の思い
・夫が十分に仕事ができなくなる
・医療費がかかる
・隠さないで認めてもらおう
娘の思い
・自分もいつかそうなる
・父の気持ちがわかる
・お父さんは被害者

父の決断
・人間らしく生きること　↓　認定される
差別や偏見との闘い

評価の観点

○新潟水俣病患者の心身の痛みを知り，差別や偏見の解消について，自分なりの考えをもつことができたか。
○差別や偏見を自分自身の問題と捉え，よりよい集団社会の実現を目指す意欲がもてたか。

展開のポイント：差別や偏見がなぜ起こるのかについて，考えたり話し合ったりして，それを解消するための考え方を学ぶ。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　新潟水俣病について確認する。	○他にどのような公害病があるかなどを話題にする。 熊本水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそくなど
2　本文を読み，患者の苦しみについて考える。	●腕のよい職人として誇りをもっていた父が思うように仕事ができないいらだちや辛さと，「タタリ」や伝染病と誤解され差別を受ける状況を理解させる。
なぜ父は，水俣病になったことを隠そうとしたのか。	
	○次のような意見を取り上げて「認定」に対する人々の認識を知る。 ・結婚や就職で様々な差別を受ける，漁業を守るため「水俣かくし」をする，「水俣病のふりをして補償金をほしがっている」「ニセ患者」と言われるなど ●水俣病を隠さなければならないことの根底に，人間の弱さやねたみがあることに気付くように，話し合いを進めていく。 ・差別を受けた患者の心の辛さを，きちんとおさえる
3　差別や偏見について知り，その解消に向けて考えをもつ。	
なぜ，差別や偏見が起こるのだろうか。	
	○話し合いによって次のような人間の心理を確認する。 間違った認識，差別や偏見への恐れ，人と違うことへの羞恥心，人間の弱さ・ねたみ ●議論することで，人権・差別問題の根底にある差別意識に気付かせる。
4　差別や偏見の解消に向けて，自分の考えをもつ。	
これから差別や偏見をなくすために，あなたはどのように行動していくか。	
	○自分の考えを記述させることで，よりよい集団社会の実現を目指す意欲をもたせる。

14	教材名 サポーター	主題名 支え合う社会	C－(12)
ねらい	よりよい社会を実現するために，社会生活を営むうえで必要な公正なルールの存在や意義について考え，公徳心及び社会連帯の自覚を高める。		

指導内容について

生徒について

中学生になると社会のしくみもある程度理解できるようになり，法やきまりについての理解も進む。反面反抗期に象徴されるように，規則に反発したり，わずらわしいものと考える傾向が強く出てくる。また，ときに，権利ばかりを主張して，義務の遂行を嫌がる風潮もみられる。

主題について

社会生活においては，法やきまりがどのような意味をもつかを理解し，利害にとらわれることなく自ら進んで守ろうとする態度を養うことが大切である。しかし，生徒はこの時期，とかく規則やきまりについては受け身にとらえがちである。そこで，主体的にきまりを守るとはどういうことなのかを考えさせ，社会のきまりを守り，互いに社会に関わる意識をもって社会生活を営むことがよりよい社会の実現につながることを考えさせる。

他の教育活動との関連

学級や学校生活をはじめ地域の一員として校則や社会のルールを考える。

教材について

展開の工夫

・ルールやきまりがわかっていても自分の都合やそのときの状況においてこのくらいは許されるだろう…など他人と異なる判断をしてしまうことがある。社会や他人と共存する中では許されないことの方が多いということを，場面アンケートや葛藤を生かした展開の中で考えさせたい。

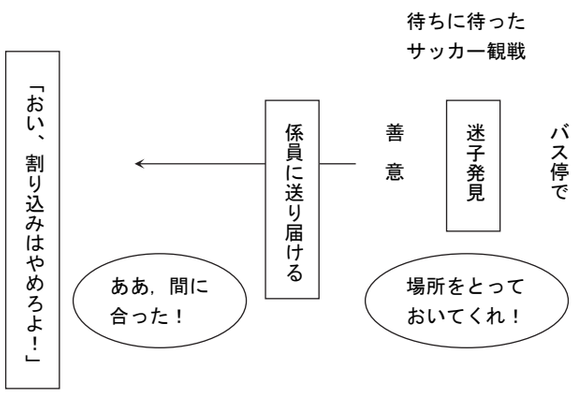
教材解説＜あらすじ＞

・待ちに待ったサッカーの試合を友人と観戦に行こうとする３人の少年。並んでいるバス停で，小さな子どもが迷子になって泣いている場面に出会った。迷子を係員に届けようとバス停から離れ，また戻って来たときに元の場所に並ぼうとすると，後ろから「割り込みはやめろよ」と注意される。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○それぞれの立場でよりよい行動について考えを深めることができたか。
○よりよい社会の実現のために互いに支え合うことの大切さに気付いたか。

展開のポイント：三者（中学生たち，高校生，周りの人たち）の立場でよりよい社会の在り方について話し合わせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　自分だったらどう考えるか振り返る。	
自分が割り込みの場面に遭遇したら，どうするか?	
	○過去の経験を振り返って同様の場面がなかったかを考えさせる。 ○自分が同じ場面に遭遇した場合どのような行動をとっていたかを正直に答えさせる。
2　本文を読んで，三者それぞれの考えを引き出す。	
三者（中学生たち，高校生，周りの人たち）それぞれの行動を整理し，そのときの気持ちを考えよう。	
	●それぞれの立場の考えを引き出す。 ●中学生たちの行動から考えを深める。 ・中学生たちの善意ある行動について ・いったん列を離れて，また戻ることについて ●シーンとなったときの，周囲の大人の言動について考えを引き出す。
3　それぞれの立場で，中学生たちや周囲の人にどのような配慮が必要だったかを話し合う。	
互いに支え合って生きる社会のために，このような場面ではどうするべきか。	
	●いろいろな場面で，どのように行動すればよいかを話し合う。 ●それぞれの立場の人がどのような言葉をかけたらいいかを考えさせる。 ・迷子を見かけたとき　・列に戻ってきた人がいたとき ・中学生が高校生にせめられているとき
4　授業の振り返り	
最後の場面でシーンとなったとき，あなたは誰にどのような言葉をかけるか。	
	●シーンとしたときに周りで何かを言いたかった人がいたのではないかという視点から周りの人（傍観者）に目を向け考えさせる。 ・理由を聞いてもよい

15	教材名 助け合い	主題名 社会連帯	C－(12)
ねらい	苦しく，辛い状況の中でも，他者への思いやりを忘れずに，互いに助け合ってよりよい地域，社会をつくろうとする意欲を育てる。		

指導内容について

生徒について

中越地震をはじめ水害など大きな自然災害の中で，ボランティアの活躍が報じられ，関心が高まっている。自らボランティアに参加する生徒もみられるようになってきた。しかし，協力することの大切さを理解しながらも，困難に直面したとき，自己中心的な態度や行動をとる傾向がみられる。

主題について

よりよい社会の実現や他者とのよりよい関係を構築するために，自己中心的な考えや行動を抑え，お互いに手を携えていくことが必要である。苦しみに耐え，励まし合いながら困難を乗り越えようとする被災者の姿から，他を思いやり，協力することの大切さに気付かせたい。そして，自分がよりよい地域社会をつくる一員であることの自覚を芽生えさせたい。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」におけるボランティア活動

教材について

展開の工夫

・中越地震のボランティア活動に焦点をあてたビデオを視聴してもよい。
・大変な被害の中にあっても，自分たちの力で困難を乗り越えようとする姿に気付かせたい。
※被災生徒には十分配慮をする。

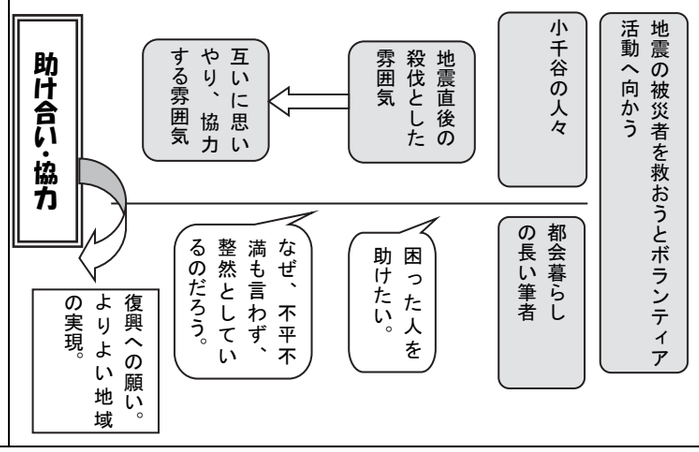
教材解説＜あらすじ＞

・中越地震での大きな被害を知り，ボランティア活動に向かった。大変な被害にも関わらず被災者の人々は自分たちのことだけでなく，地域の人たちのことを優先に考え，自分たちの力で生きていこうとする。その姿に感動し，被災者の方との関わりの中で思いやりの心や協力することの大切さに気付く。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○被災者が，なぜ地震という困難な状況の中でも不平・不満を言わず耐えていることができるのかを考えることができたか。
○自ら進んで協力し，助け合いながら困難を乗り越えることの大切さに気付くことができたか。

展開のポイント：避難所の人々の行動の様子から協力や助け合いなどについて話し合い，地域や社会のために自分にできることを考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　地震災害について考える。	
もし，大地震で被災したら，どのようなことができなくなると思うか。	
	○地震の様子を表す写真，新聞記事，生徒作文などを紹介しながらイメージをもちやすくする。 ●日頃あたり前に生活している部分ができないことに気付かせる。
2　本文を読み，避難所での生活をしている人たちの思いを考える。	
なぜ避難所の人々は筆者が驚くくらい整然として，不平不満を言わないのだろうか。	
	○本文を読み，目崎さんの最後の言葉から，雪深いこの地域では昔から困ったときには協力し合ってきたことに気付かせる。 ○本文から考えたことを発表し合う。 ●次の主発問へつなげるための補助発問と考え，ここでは時間をかけすぎないようにする。
3　都会暮らしと避難所の違いを見て，今の社会が失いかけているものについて考える。	
筆者が言う「今の社会が失いかけているもの」とは何だろう。	
	○本文を読み，自分の考えをもたせ，発表する。（付箋やホワイトボードを活用する。） ○班で意見交流し，出た意見をまとめて全体で交流する。 ●自分のことだけでなく，近所・地域全体のことを考えた発言や行動に着目させる。 ・自分のことばかり考えていたのではどうしようもない ・感謝の気持ちを忘れない ・互いに助け合い苦難を乗り越える ・困難から力強く立ち上がろうと頑張る気持ち
4　今日学んだことを今後の行動にどのように生かしていくかを考える。	
地域，社会のために自分ができることを書こう。	
	○話し合いや全体での発表で共有したことを参考に，授業を振り返ったり，自分の考えをまとめたりする。 ●今日学んだことが実践に結び付くように，具体的な行為・行動を考えさせる。

16	教材名 職場体験レポート	主題名 働くことの意義	C－(13)
ねらい	働く人の仕事に対する姿勢や思いを知り，働くことの意義を考える。		

指導内容について

生徒について

中学生の時期は自分の進路や将来の夢について関心が高まっていく時期だが，多くの生徒は進学といった目先のことにとらわれがちで，将来の職業まで考えが及ばない場合が多い。また，実際に汗して働く体験が少なく，働くことから得られる喜びや生きがい，また厳しさなどの本来の勤労の意義を理解していないのである。

主題について

働くことには，苦労や辛さが伴うものである。だからこそ，そこには喜びや充実感が生まれ，さらに大きく自分の生きがいや誇りにまでつながっていくことになる。ここでは，実際に働く人の思いや精神に触れることで，働くことの意義を実感させたい。

他の教育活動との関連

自校の職業体験学習，社会奉仕体験活動，勤労奉仕的な行事など

教材について

展開の工夫

・会話の中から，３人の仕事への厳しい姿勢や喜びに気付かせる。終末では，「働くこと」の意義についてじっくり考えさせ，自分の将来と結び付ける。
・自校の職業体験学習などとの関連を図り，生徒の感想やレポートを用いる展開の工夫も考えられる。

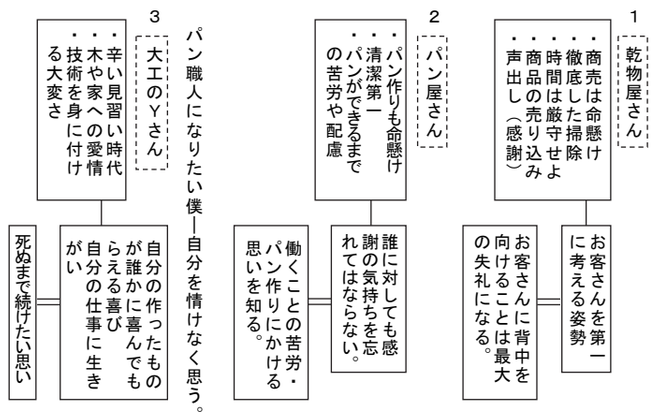
教材解説＜あらすじ＞

・教材は，生徒が書いた職場体験のレポートである。修学旅行での小売店での体験と市内での職場体験学習から学んだことをまとめた３つのレポートによる構成になっている。それぞれの言葉から三者三様の自分の仕事に対する思いを捉えることができる。しかし，３人とも働くことに生きがいを感じていることは共通している。教材からは仕事に対する厳しい態度や誇りをもって働いている姿に気付くことができる。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○各レポートから，働く人の考え方や生き方を捉えることができたか。
○「働くこと」の意義，喜びや生きがいについて考え，自分の将来に夢や希望をもつことができたか。

展開のポイント：職場体験レポートを通して，働く人の仕事に対する姿勢や思いに自我関与させ，勤労の意義について理解したり，将来の生き方について考えたりする。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　職場体験学習を通して学んだ「勤労」について思い出す。	○職場体験で，一番印象に残った言葉や出来事を思い出させて，発表させる。
職場体験学習を通して，働くとはどういうことだと思ったか。	
2　各レポートから，働く人の仕事に対する姿勢や思いを考える。	○それぞれの仕事で，気を付けていることや心がけていることに違いがあることに気付かせる。
（１の乾物屋さん） 「私」がおじさんから感じる「説得力」や「言葉の重み」とはどのようなことか。	
	・長年の経験からのアドバイス ・普段の生活では気付くことのできない接客での大切さ ・商品に対する愛情や思いやり
（２のパン屋さん）「僕」はなぜ自分を情けなく思ったのだろうか。	
	・仕事に対する考えの甘さ
（３の大工さん）Ｙさんが「この仕事に生きがいを感じる」のはどうしてだろうか。	
	・苦労して仕事をものにしてきたから ・作ったものを誰かが喜んでくれるから ・技術が向上する喜び
３人に共通していることはなんだろう。	
・グループで意見を出し合い，発表する。	○各発問の後，総括して「働くこと」に関して３人に共通している思いを考えさせる。 ●実体験のことも含めて発表する。 ・仕事に対する姿勢 ・人のために働く生きがい ・働くことの楽しさ
3　各レポートや自分の体験を通して，「働くこと」の意義から，自分の将来の生き方について考えを深める。	○この３つのレポートの例や自分の職業体験で学んだこともあわせて考えさせる。
働くことと自分の将来の夢や希望について考えたことを書こう。	

17	教材名 山男の心	主題名 勤労の尊さ	C－(13)
ねらい	勤労を通じて社会に貢献することは，自らの充実感にもつながることに気付く。		

指導内容について

生徒について

中学生は，自分の興味のあることには熱中するが，清掃などの共同でやる仕事などを嫌がる傾向がある。反面，他との関わりの中で自分の存在を確認したり，勤労を通じて社会に対して何か役に立ちたいという意識が芽生えたりするのもこの時期である。

主題について

社会を発展させ，より多くの人が幸せになるためには，互いに協力し，助け合うことが必要である。働くことは社会分業になっていると同時に，社会的に役立ち，人に喜びを与えるということでもある。個人の立場を越えて，社会全体の利益を大切にする心と，公共の福祉のために尽くそうとする態度を育てたい。

他の教育活動との関連

進路指導，奉仕活動

教材について

展開の工夫

・社会全体に対する勤労・奉仕が社会を発展させ，それが一人ひとりの幸福を増大させることに気付かせる。

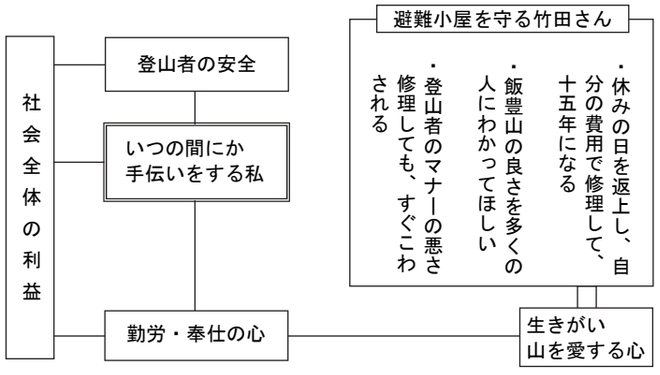
教材解説＜あらすじ＞

・荒廃する山小屋を修理して守り続け，奉仕活動を生きがいとしているひげ面の山男の話。山男の言動から，彼の人柄や生き方をうかがい知ることができる。社会のため，他の人々のために尽くしている彼の姿は他を感動させる。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○他の人のために奉仕し続ける竹田さんの強い思いを捉えることができたか。

○誰かのために働いたり，社会に奉仕したりすることは，自分自身の大きな喜びや生きがいにつながっていくことに気付いたか。

展開のポイント：主人公の充実感や誇りについて，じっくり考える場面と，考えを交流する場面を設け，学びを深める。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　身近な公共施設について考える。	
身近な公共施設の清掃・整備を行っているのは誰か。その姿に出会ったことがあるか。	
	○清掃・整備の様子を表す写真，新聞記事，生徒作文などを紹介し，イメージをもちやすくする。
2　本文を読み，他の人のために尽くす竹田さんの姿について考える。	
竹田さんが，壊されることを知りながらも山小屋の修理を続けているのはなぜか。	
・本文から考えたことを，グループで意見交換をしながら共有し，竹田さんの思いに迫る。	○竹田さんが， ・自分の時間を使っていること ・自分で費用を負担していること ・やめたい気持ちもあったこと を踏まえさせる。 ○人のために尽くし，みんなの役に立つことが竹田さんの喜びや生きがいになっていることに気付かせる。 ○キーワードとして， 「自己満足」 「道楽」 「誇り」 等を出させながら，自分がもつ技術，自分の力をみんなのために使っていることに気付かせる。
3　竹田さんの姿から学んだことをまとめる。	
授業を通して感じたことをもとに，これからの生活で自分ができることを書こう。	
	○竹田さんの生き方は，人を感動させ，動かしていることにも触れる。 ●本時の学びを実践に結び付けられるように，具体的な行為・行動を想起させる。

18	教材名 心をつなぐカレンダー	主題名 家族愛	C－(14)
ねらい	岡田清和さんが「はり絵」を通して社会や家族と支え合う姿から，自分の周囲の人や家族の愛情に気付く。		

指導内容について

生徒について

中学生の時期は，自我意識に目覚め，自立しようとする。したがって，家族との触れ合いも，あえて避けようとする傾向がある。さらに，家族形態の多様化に伴い，家族相互の触れ合いや心のつながりも希薄になりがちである。しかし，その現実の一方で，家族関係は中学生の心身の安定や成長に大きく影響する。また，本来，家族相互の心の結び付きを感じたいと願っているが，素直に表現できないことが多い。

主題について

家族の状況を理解し，互いに支え合い，思いやることの大切さを考える。そして家族のあるべき姿や家族への無償の愛に気付かせたい。それが，自らの家族関係や家族への言動を振り返らせ，良好な家族関係を築く動機付けとなるはずである。

他の教育活動との関連

技術・家庭における家族や家庭に関する学習

教材について

展開の工夫

・「自らも病気を抱えながら懸命に支え続けた母の思い」に気付かせる。さらに，「障害がある息子を残して逝かなくてはならない母の気持ち」を考えさせることで，親が子を思う愛情の深さに気付かせる。岡田さんの母の無償の愛を知ることで，生徒自身が，家族との関わり方を考えるきっかけとしたい。

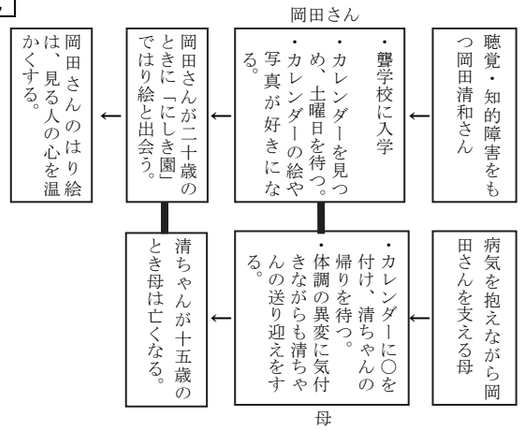
教材解説＜あらすじ＞

岡田清和さんは，聴覚障害，知的障害をもって生まれる。母は，病気を抱えながら，最期まで岡田さんを支え続けた。岡田さんと母にとってカレンダーは心をつなぐものであり，そのカレンダーが岡田さんとはり絵の出会いを生んだ。岡田さんのはり絵には，母や多くの支援者の温かな思いが詰まっており，見る人の心を温かかくした。

出典・その他

編集委員作

本文の構成



評価の観点

○岡田清和さんを支える母親の無償の愛情に気付くことができたか。

○自己を振り返り，家族との関わり方を考えることができたか。

展開のポイント：主人公に自我関与させることで，自分を支える家族や周囲の人の愛情に気付かせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　岡田さんのはり絵を掲示し，どんな人が描いたのかを想像する。	○あまり語らず，絵だけを見せ想像させる。
はり絵はどのような人が描き，この絵からどのようなことを感じるか自由に話し合おう。	
2　本文を最後まで読み，岡田さんの母の息子に対する思いを捉える。	●答えをここでは出さない。
お母さんは，どのような気持ちから岡田さんを聾学校に入学させたのだろうか。	
	●母親の岡田さんの将来を思う気持ちを捉えさせる。 ・岡田さんが自立できる力を身に付けさせたい ・社会との関わりをもたせ，岡田さんが自立できるようにしたい ・自分がいなくなった後のことを考えて自立させたかった
お母さんは，体の変調に気付きながらも，岡田さんをどのような気持ちで育て，最期を迎えられたのだろうか。	
3　岡田さんのはり絵のもつ温かさを感じ取る。	●母親の愛情の深さや子どもへの思いを感じ取らせる。 ○様々な思いを共有できるように発問する。
岡田さんのはり絵が見る人の心を温かくするのはなぜだろうか。	
4　授業で考えたことを今後の生活に生かしていく。	●お母さんの愛情が岡田さんの貼り絵の原点になっていることに気付かせる。 ・お母さんの愛情や岡田さんのお母さんに対する愛情 ・岡田さん自身がもつ心の素直さや温かさ ・陶芸家の高井さん，にしき園のみなさんの温かな支え
今日の授業を振り返り，今後，家族とどのように関わっていこうと思うか。	

19	教材名 あじみこ＋そ	主題名 よりよい学校生活，集団生活の充実	C－(15)
ねらい	あいさつの意義を考えることを通して，集団生活について考え，自分の役割を果たし，行動できる態度を育てる。		

指導内容について

生徒について

生徒が集団の中で必ず行う「あいさつ」は，中学生にとって身近な題材である。日頃，あいさつは大切なことだとわかっているものの，「大きな声でしよう」「自分からしよう」と言われることに，なぜそうしなければならないのか感じている生徒も多い。また，学校をよくしたいという思いはもっていても，具体的な言動にまで考えが至っていない生徒も多い。

主題について

集団生活を送るうえで，「あいさつ」は毎日必ず行うことの一つである。あいさつをすることで集団生活はうまく機能していく。あいさつは，集団生活の向上に必須である。自分たちと同じ中学生が書いた作文を読み，「あいさつ」の意味をもう一度深く考えたり，「あいさつ」を向上させたりすることで，よりよい集団生活を目指す態度，行動について考えさせたい。

他の教育活動との関連

生徒会活動，地域との関わり，ＰＴＡ活動，小中連携事業など

教材について

展開の工夫

・自分のあいさつを振り返らせることで，内容を自分のこととして考えさせる。
・先生の言葉の意図を考えさせることで，あいさつについて考えを深めたり，あいさつ向上（生活向上）の余地があったりすることに気付かせる。
・終末では，あいさつを通して考えたことを，その後の言動などに反映できるようにするとよい。

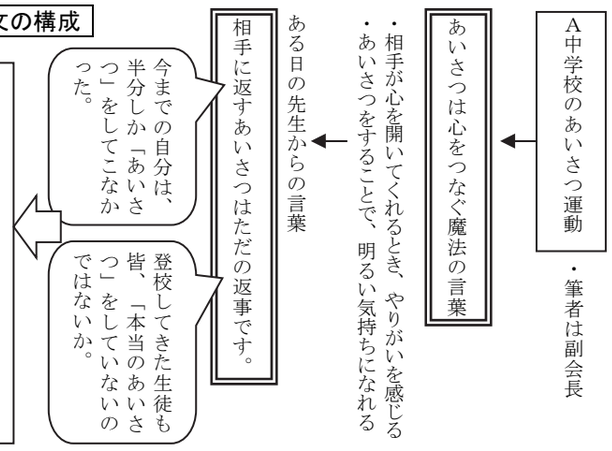
教材解説＜あらすじ＞

・筆者の通う中学校では「あじみこ＋そ」を伝統としていて，筆者は毎日あいさつ運動に参加している。あいさつを通して，心を交わすことにやりがいを感じている。しかし，ある日先生から「相手のあいさつに返すあいさつはただの返事」という言葉をもらう。そこで，自分たちのあいさつをもう一度振り返り，「あじみこ＋そ」に対し，さらに意味をよく考えたうえで，取り組んでいこうと決意する。

出典・その他

生徒作品

本文の構成



評価の観点

○あいさつについての意見を，自分のこととして捉え，どのような行動や態度が，よりよい集団生活につながるか考えることができたか。
○あいさつの意味について考えを深めることができたか。

展開のポイント：本文を分割して，おもにあいさつの意義を考えることで，問題解決的な学習プロセスにしていく。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　主題に関わる具体的な場面を思い起こさせ，生活の様子を振り返る。	
今の私たちの学校の「あいさつ」の様子はどうか。振り返ってみよう。	
	○近くの人と話し合わせてもよい。 ○学習内容「よりよい学校生活・集団生活について考えよう」を提示する。
2　筆者の姿勢や考え方から，あいさつの意味について考える。	●２段落目まで教材を読む。
あいさつは心をつなぐ「魔法の言葉」とあるが，この言葉にはどのような思いが込められているか。	
・ホワイトボードなどに，グループメンバーの意見をまとめ，掲示するなどして，全体でシェアする。	●現状に満足するのではなく，「先にあいさつをする」ことの良さを考えさせたい。 ○筆者のあいさつ運動への参加態度に注目させる。 ○言葉の意味，する側，された側の心情を中心に考えさせたい。 ●小グループでの意見交換から，全体で共有していく。 ○自分からあいさつすることは大切だとわかっていても行動できない現実にも触れられるとよい。
3　よりよいあいさつについて考える。	●３段落目まで教材を読む。
先生が「相手のあいさつに返すあいさつはただの返事だ」と言った意図は何か，考えてみよう。	
・共有化した意見を参考に，個々で考える。	○筆者は現状に満足せず，よりよい学校にしていきたいと考えていることに注目させる。
4　よりよい学校生活について考える。	●最後まで教材を読む。
授業を通して感じたことをもとに，よりよい学校生活のためにこれからの生活でできることを書こう。	
	○よりよい集団生活のために，自分ができることを考える。

20	教材名 郷土芸能クラブ	主題名 郷土に思いをよせて	C－(16)
ねらい	郷土の自然や伝統，文化を見つめることによって，地域社会の一員としての自覚と誇りをもつ。		

指導内容について

生徒について

中学生ともなると自我意識が芽生え，ともすれば，自分が自分だけで存在していると考えがちである。日常の活動も学校生活が中心となり，地域活動への参加を嫌う傾向がみられ，地域の伝統や文化に触れる機会も少なくなってきている。そのために地域社会によって育まれる人間の心のつながりや連帯感が薄れてきている。

主題について

生徒と地域の人々との触れ合いが減少している現在，地域の伝統行事や普段は気付かない地域の自然などにも目を向けさせ，地域を見つめることで地域社会の一員としての自覚や誇りを高めていくことは大切なことである。さらに，人間は家族，地域，社会との関わりの中で共同して生活しているということにも気付かせる。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」，地域社会と関わる活動
文化祭等の学校行事
社会科（地理的分野）「身近な地域」

教材について

展開の工夫

・馴染みの薄い郷土芸能クラブに入ったきっかけと，次第にクラブ活動に意欲的に取り組む気持ちの変化を捉えさせる。
・郷土（地域）の伝統文化や自然を受け継ぐために必要なことを話し合い活動によって見いだし，社会の一員として生活することを考えさせる。

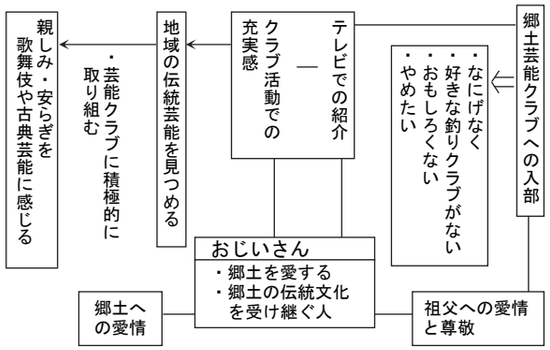
教材解説＜あらすじ＞

・初めは気乗りのしなかった国指定文化財の文弥人形のクラブ活動だったが，次第に伝統芸能の世界に引き込まれていく佐渡の中学生の作文である。筆者の心情の変化を読み取らせることで，伝統芸能の存在や価値に気付くことのできる，適切な教材である。

出典・その他

生徒作品

本文の構成



評価の観点

○筆者の活動に対する心情の変化と，伝統芸能に惹かれ，思いが深まっていく様子を捉えることができたか。
○郷土の伝統に愛着をもち，地域社会の一員としての自覚や関心が高まったか。

展開のポイント：登場人物の伝統芸能に対する思いを感じ取らせる。さらに，自分たちの郷土に受け継がれている伝統文化や自然をどのように守っていくかを話し合う展開にさせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　自分たちの郷土（地域）に目を向ける。	
私たちの郷土（地域）にある伝統芸能や文化，自然などで誇れるものを思い浮かべてみよう。	
	●あまり時間をとらずに数人に発表させる程度にする。
2　本文を最後まで読み，郷土の伝統芸能を大切に思うおじいさんの気持ちに気付く。	
おじいさんはどのような思いで主人公の舞台を見て，うなずいていたのだろうか。	
	○郷土の伝統芸能を大切に思っている気持ちや，主人公が受け継いでくれたことに対する思いなどを感じ取らせる。
3　主人公の伝統芸能に対する思いの変化に気付く。	
舞台を終えた主人公の「ぼくに迷いはない」には，どのような思いが込められているのだろうか。	
	○入部当初からの伝統芸能に対する気持ちの変化と，使命感などが芽生えている主人公の意識の高まりを感じ取らせたい。
4　郷土（地域）の伝統文化や自然を守っていこうとする自覚をもつ。	
私たちの郷土（地域）に受け継がれてきた伝統文化や自然にはどのようなものがあるだろうか。また，それを受け継いでいくために必要なことは何だろうか。	
	○グループごとに考えをまとめさせ，全体で発表させる。（模造紙やホワイトボードを利用する） ●伝統文化などの意見が出にくい場合は，農業や産業など職という視点を与えるなど，追加発問を工夫する。 ○以下のような視点が生徒から出るように支援する。 ・地域の祭りに積極的に参加する ・家族が行っている農業をすすんで手伝う ・地域の海岸清掃に参加する ・地域にどのような伝統文化があるのかを詳しく調べる
5　授業を振り返る。	
今日の授業を振り返り，地域社会の一員としてどのように生活していきたいか，できることを書こう。	

21	教材名 わたしの町	主題名 郷土愛	C－(16)
ねらい	伝統行事や町おこしの活動を通して，自分の住む町を見つめ地域社会の一員としての自覚を深めながら，郷土への思いを深める。		

指導内容について

生徒について

生徒は学校・家庭という限られた集団の中で生活し，地域社会と関わりをもつ機会は多くない。したがって，地域社会への関心が薄く，自らが果たすべき役割についての自覚が弱い。地域社会に対する要望や期待はもっているが，それは第三者的立場であり，自分はその中に入っていない場合が多い。地域の行事や活動に視点を向けることを通して，郷土の良さや先人の努力に気付かせていく機会としたい。

主題について

地域と自らの生活との結び付きについて考える中で，地域社会の一員としての自覚の上に，地域社会の発展のため，自らがどう働きかけ，どのように生きるかを考えさせることは大切なことである。そこで，地域の現実に目を向けさせ，自らと地域社会との関わりを考える中で，地域の一員としての自覚をもち，すすんで地域社会の発展に尽くそうとする態度を育てたい。

他の教育活動との関連

職場体験学習，「総合的な学習の時間」における地域学習など

教材について

展開の工夫

・地域の写真やビデオ，祭り囃子や笛太鼓の音色等視聴覚的な教材を導入で活用してもよい。
・都市化や近代化を望む流れの中で，歴史ある古い町の伝統行事と町屋を保存するための「町おこし」の活動が成功していることを理解させる。そして，中学生が地域の行事に参加することの意義を考えさせるとともに，郷土の発展について考えさせていきたい。

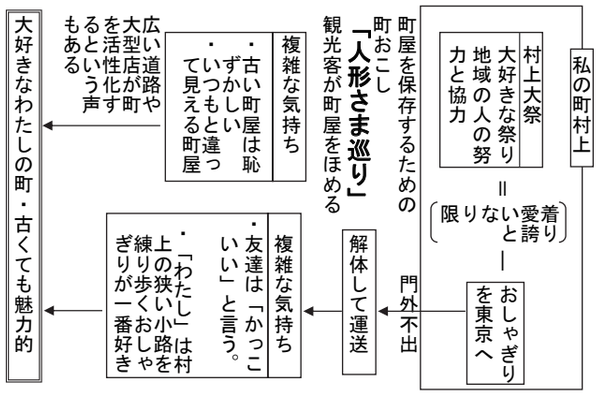
教材解説＜あらすじ＞

・伝統行事の祭りに主催者側として参加してきた中学生の，郷土村上に対する愛着や誇りが感じ取られる作文である。
・歴史的な伝統行事を守り育てようとしている地域の人の努力や温かさを感じた一方で，門外不出と言われてきたおしゃぎりが首都圏に展示されることに対して，「わたし」はとまどいを感じている。古い町屋に住む「わたし」は近代的な家に憧れているが，町屋を訪れた観光客と触れ合う中で，もう一度自分の住む町屋の良さを感じ取ろうとする。地域の中で生活している中学生の今の素直な気持ちを感じ取らせる中で，郷土に対する愛情を深めさせていきたい。

出典・その他

生徒作品

本文の構成



評価の観点

○「わたし」の郷土村上に対する思いに共感し，自分の住む郷土について思いを深めることができたか。
○郷土の一員として，どうあるべきか具体的に考えることができたか。

展開のポイント：郷土の良さに気付いた「わたし」に共感させ，郷土への思いをふくらませる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　主題に関わる具体的な場面を思い起こさせ，生活の様子を振り返る。	
私たちが参加を求められている地域の行事を挙げてみよう。	
	○近くの生徒と話し合わせ，簡単に挙げさせる。 ○学習内容「郷土愛」を示す。
2　本文を読み，「わたし」の思いについて考える。	
「わたし」は村上大祭に対してどのような思いを抱いているだろうか。	
・本文から考えたことを共有し，発表し合う。	●次の主発問へつなげるための補助発問と考え，肯定的な思い・否定的な思いを整理するに留め，時間をかけないようにする。 ○祭りや郷土に対して近代的な発展も願っている反面，ありのままの郷土を大事にしたいという思いもあることに気付かせる。
「わたしたち」はなぜ地域の行事に参加するのだろうか。	
	○「わたし」の郷土への思いから，自分自身の地域に対する思いを引き出す。 ○発言が停滞した際には，「わたしたちの参加を大人たちが喜ぶのはなぜか」と考えさせてもよい。
3　自分たちの郷土に対する思いを振り返る。	
授業を通して，地域の誇りと愛着をもつために自分ができることを考え，書こう。	
	○本時の学びが実践につながるように，具体的な行為・行動を考えさせる。 ●短絡的に「行事に積極的に参加する」ではなく，「どのような気持ちで参加するか」を考えさせたい。

22	教材名 米百俵	主題名 郷土への思い	C－(16)
ねらい	郷土の発展に尽くした先人の生き方や考え方を知り，郷土を愛する心をもつ。		

指導内容について

生徒について

中学生にもなれば，地域や郷土に対する認識はある程度深まってはいるが，実生活では徐々に地域や郷土との関わりが少なくなり，その愛着心も希薄になってくる。したがって，今日の郷土発展のために尽くした人々の努力や苦労に気付かずにいることが多い。

また，現在の自分たちの生活が，多くの先人の努力や苦労による恩恵にあずかっていることを理解していない場合が多い。

主題について

郷土の発展に尽くした人々への感謝の気持ちを深め，地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，すすんで郷土の発展に努めようとする姿勢を育てる。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」（郷土学習等），進路指導等の学習活動

教材について

展開の工夫

・読み物教材としては長いので，事前に読ませておく等の配慮が必要である。また，戊辰戦争後の長岡藩の貧窮の様子についても補足説明する必要がある。

・「国づくりは人づくり」という虎三郎の精神に目を向けさせる。藩や藩士の苦しい現状を理解したうえで教育に力を注ぐことが，地域の発展につながると考えた虎三郎の偉大さと，教育のもつ意義について考えさせ，郷土に対する深い愛情を捉えさせたい。

教材解説＜あらすじ＞

・山本有三の戯曲から作られた教材で，長岡の偉人「小林虎三郎」を語ったものである。

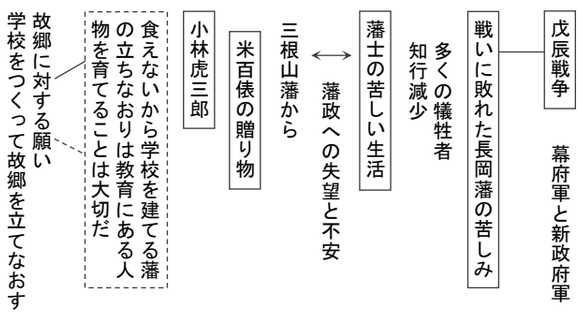
・贈られた米の活用法をめぐって，米の配分を願う困窮した藩士たちの不満の刃を前にしながらも，将来の郷土の発展を期して学校を建てるために米を売り払うことを決意した小林虎三郎。一時的に困窮を解消するよりも，将来の更なる発展のために当面は我慢して教育に投資しようとする彼の強い信念が感じられる教材である。

・小林虎三郎と他の藩士との考え方の違いから，小林虎三郎がより深く郷土を愛し，将来の地域の発展を考えていたことを読み取ることができる。

出典・その他

山本有三『米百俵 小林虎三郎の思想』長岡市

本文の構成



評価の観点

○小林虎三郎の考え方や郷土の発展に尽くす姿を共感的に捉えることができたか。

○郷土を愛する心をもち，郷土のために今後，自分にできることを考えることができたか。

展開のポイント：虎三郎の考え方を理解し，これからの人づくりと郷土の発展について考える。
（役割演技などを入れた２時間扱いにしてもよい。）

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　戊辰戦争の概要と長岡藩の貧窮の様子を理解する。	○戊辰戦争について大筋を説明し，長岡藩との関わりについても付け加える。 ●本文年表から，戊辰戦争をめぐる人名を挙げてもよい。
2　本文を読み，虎三郎の心情を理解していく。	●役割を分担して読むのもよい。 ●「米百俵」という言葉のもつ意義について，確認する。
虎三郎が藩や藩士の困窮を知りながら，学校を建てようとしたのはなぜか。	
	○目先の豊かさよりも，後々の地域の発展のためには，「人づくり」が先決であるという方向に向かって話し合いを進めていく。 ●話し合いの深まり方によっては，「常在戦場」の意義について考えさせてもよい。 ○「人間，どれだけ苦しみに耐えることができるかによって，はじめてその人の値うちがわかるのだ。」の部分を引用して考えさせる。
3　郷土を豊かにすることは「人づくり」が先決であるということについて考えを深める。	●当時のことを考えたのちに現代についても考えさせ，自分に関わる課題を明らかにしていく。
郷土を豊かにすることと「人づくり（教育）」には，どのような関係があるか。	
・当時ならばどうか	○人同士のいがみ合いや戦（いくさ）をなくし，人々が幸せに暮らせる世の中をつくっていくことができる。
・現代ならばどうか	○学ぶことによって自分の（付加）価値を高め，郷土の発展に貢献できる人物になっていける。 ●上記２点を，教師による説話としてもよい。 ●ペアで考えを出したり発表したりする。
4　今後の自分の在り方を考える。	
自分の地域の発展のために，どのようなことができるだろうか。	
	●ワークシートに書かせ，全体で共有する。 ・勉強する ・地域での奉仕活動をする

23	教材名 郷土を水害から救った人 ――中山龍次――	主題名 郷土を愛する態度	C－(16)
ねらい	郷土に尽くした人々の生き方や考え方を学び，郷土を愛し，郷土の発展に貢献しようとする態度を育てる。		

指導内容について

生徒について

中学生は地域や自分が暮らす郷土に関する知識はもっており，愛着もある。しかし，地域とのつながりが薄れ，地域の活動に参加し，地域に貢献することが少なくなることから，愛着心が希薄になりがちである。しかし，現在の生活は多くの地域の人々に支えられていることも事実である。自分の生活している地域や郷土は，多くの先人の努力や郷土を思う心によって発展してきたことに気付いている生徒は少ない。

主題について

郷土の発展に尽くそうとしている人々の生き方から，郷土に対する熱い思いに触れさせ，郷土を愛し，郷土の発展に尽くそうとする態度を育てる。

他の教育活動との関連

地域貢献ボランティア，「総合的な学習の時間」（地域学習等）

教材について

展開の工夫

・郷土が水害に苦しむ姿を見て，高齢になってもさらに郷土のために尽くそうとする中山の熱い思いに注目させたい。
・郷土のために治水工事を行った中山の生き方についての支持度を尺度を用いて表し，その理由をグループ内で意見交換する。

教材解説＜あらすじ＞

・信濃川の洪水で毎年のように被害を被っている郷土十日町の姿を見て，治水工事に取り組もうと決意する，70歳を越えた中山龍次の工事にかける熱意を描いている。

出典・その他

『生命の詩』新潟県教育委員会

本文の構成

昭和二十年十月　信濃川が氾濫し、大洪水に
「信濃川の洪水は天災と同じ。こればっかりゃ人間の力じゃどうしようもない。」とあきらめきった老人の声

（今日の科学でこれしきの災害を防げないはずがない。絶対になんとかしなければ）

昭和二十一年『信濃川魚沼治水会』設立

資金難・周囲の人々のあきらめきった姿に失望
→熱意ある人からの支援で決意を新たに

地域を調べ『信濃川水害史』編さん
国や県に請願書とともに提出

無統制な工事が災害を大きくしたことを知る
→工事は私利私欲を捨て全体的な立場で進める必要

昭和二十二年から十か年継続事業で着工。中山は被害の大きかった村から工事開始を提案。周囲の人々が共鳴し、一気に工事が始まった。

評価の観点

○郷土のために尽くそうとする中山の考え方を共感的に捉えることができたか。
○郷土を大切にしていこうとする気持ちをもち，今後自分にできることは何かを考えることができたか。

展開のポイント：郷土を広い視野で捉え，郷土や地域の発展のために尽力した中山龍次の生き方を通して，自分が郷土のためにできることを考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　地域や郷土出身で業績を残した人について，紹介をする。 2　本文を読んで，信濃川の洪水の様子を見て，治水工事を決意し，行動していく中山の心情について考える。	●総合的な学習や社会科などでの学習と関連付けて進めることもできる。
中山に信濃川の治水工事へ取り組もうと決意させたものは何だったのだろう。	
	○信濃川の洪水により，大きな被害を被って打ちひしがれたり，あきらめたりしている郷土の様子に対して，「このままではいけない」と郷土への熱い思いを抱いている中山に気付かせたい。
信濃川の治水工事への着工までにどのような困難があったのだろうか。 そのときの中山はどのような思いをもっていたのだろうか。	
	○「郷土のために」と立ち上がった中山であったが，周囲との気持ちの差に心が揺れ動いていることをおさえる。
3　実際に工事を着工するにあたり，被害の大きかった地域を優先し，周囲の協力を得た中山の郷土に対する熱い思いについて考える。	
中山が被害の大きい地域から工事を開始したことについて，あなたはどのくらい支持するか。	
	○支持度を４段階に分け，その根拠を記述させる。グループ内で根拠を発表し合い，価値観を高めていく。 3 とても支持　2 まあまあ支持　1 少し支持　0 支持できない ●郷土を「自分の住む地元」でなく，「水害に苦しむ信濃川流域全体」と捉えて，工事の計画を提案した中山の郷土への思いに気付かせたい。 ●意見交換が「周囲の賛同を得るための行動」で終始しないように必要に応じて声を掛けていく。
4　中山の生き方から学んだことを今後，どのように生かしていくか，自分の考えをまとめる。	
中山の生き方から，あなたは郷土のためにどのようなことができるか考え，書こう。	
	○郷土を大切にし，郷土のために自分ができることは何かを考えさせる。 ○先人の努力に敬意を払うだけでなく，自分たちがこれを受け継ぎ，さらに発展させていく立場であることにも気付かせたい。

24	教材名 さよなら，ホストファミリー	主題名 国を愛する	C－(17)
ねらい	日本の良さを見つめ直し，日本人であることの誇りと日本を愛する心をもつ。		

指導内容について

生徒について

中学生では広い視野に立っての，世界の中の日本や日本の文化，国土や歴史についての認識は不十分である。しかし，これからの生活において，他国との協調はとても大切なことであり，他人事ではない。他の国々や人々と協調することのできる広い心をもつにはまず，自分の国を知り，日本人としての自覚をもち，日本の良さを理解する必要がある。

主題について

日本を愛する心は，国際社会に生きる日本人としての自覚と責任をもって，国際社会に貢献しようとすることにつながる。ここでは自国の文化や伝統を尊重し，自分の国を愛する心を養う。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」などの国際理解，また，ＡＬＴとの交流を十分に生かし，「自国」の良さを認識しながら，他国の良さを学ぶようにするとともに，地域学習の深まりにも期待したい。

教材について

展開の工夫

・知子の気持ちの変化を整理して捉えることによって，自国の文化や伝統を理解することの大切さに気付かせる。

教材解説＜あらすじ＞

・中学２年生の知子は，ニュージーランドでホームステイを体験する。ホストファミリーのソニアは自国への誇りをもっている。
・英会話には自信のあった知子であるが日本の文化や伝統となると自信がない。ソニアの考え方に触れ，自分を省みる。

出典・その他

文部省道徳推進指導教材４
坂口幸恵作

本文の構成

日本人としての意識
日本を知ること、愛することの自覚
←
心を打ち解け合って話ができた。
味わったことのない日本人としての意識
←
自分の国のことを知らないのは恥ずかしい
意地悪な質問に聞こえる
英会話に自信がある。楽しくコミュニケーションできれば十分。
←
日本のことを教えてほしい

評価の観点

○知子の心の変容に気付き，自己を振り返って，日本を愛する心の大切さに気付いたか。
○自国の良さを理解し，日本人としての誇りや日本を愛する心について，自分なりに考えをもつことができたか。

展開のポイント：ホストファミリーの「ソニア」の考え方に触れ，知子が自分を省みる課程をもとに，自国の良さは何か，自国を愛するということはどういうことかを考える。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　ホストファミリーについて知る。	
ホストファミリーについて知っているか。	
2　本文を読んで，知子の気持ちの変化を考える。	
「自分の国のことを知らないってことを恥ずかしいと思わないの？」と，ソニアに言われる前と言われた後の知子の気持ちの変化を整理して書いてみよう。	
	●次の①②の視点で考えさせる。 ①ニュージーランドに来たばかりの頃 ②ソニアに恥ずかしいと思わないの？と言われてから ○①②についての自分の考えをワークシートに書かせる。 ①・コミュニケーションができれば十分 ・日本についてなんて考えたことない ・英会話をしてきて万全 ②・ソニアの求めるコミュニケーションと自分との違いを知った ・日本のことを勉強してくるべきだった ・ソニアのニュージーランドを大切にする心を知った ・日本のことを真剣に考えるようになった
3　自国を見直し，日本の文化や伝統を学んでいこうとする知子の考えをもとに，自分の考えを深める。	
日本の良さや誇れるべき点について，気付いたことを挙げてみよう。	
	●文化的な事柄だけでなく，幅を広げて考えさせ，日本人の国民性や行動面についても触れられるようにする。 ○班で意見を出し合い，全体に発表し，日本の良さや誇れるべき点を共有する。 ・歴史ある寺や神社が多数ある　・美しい着物 ・祭りなどの地域の行事を大切にしている ・すもう，柔道，剣道など日本発祥のスポーツがある ・四季があり，季節ごとに変化する美しい自然 ・水がおいしい　・一生懸命働く　・おもてなしの文化 ・思慮深く，また奥ゆかしさのある行動：会釈やお辞儀，正座をして手をついてのあいさつなど ・列に並んで電車やバスを待つなど，ルールを守る
4　今日の授業を通して，自国についての考えを自分の言葉でまとめる。	
今日の授業を通して，自分の国を愛するということはどういうことか，自分の考えを書こう。	
	○自分のこととして捉え，自分の言葉でまとめさせる。 ・自国に誇りをもつこと ・自国についてしっかりと勉強し，良さを知ること ・日本の良さを語れる人になること

25	教材名 アンニョンハセヨ	主題名 国際理解	C－(18)
ねらい	日本とは異なる文化を理解し，互いに尊重し合おうとする心を育てる。		

指導内容について

生徒について

中学生になると，教科等での学習のみならず，テレビや新聞などを通して様々な情報を手に入れ，世界の国々との様々な関わりを体験する機会が増えてくる。グローバル化する社会の中で生きていく生徒にとっては，我が国の伝統や文化を深く理解することはもとより，世界の人々と関わり，異文化を正しく理解することが大切である。

主題について

グローバル化が進展する中で，将来の我が国を担う中学生には，日本のことだけでなく，国際的な視野に立ち，世界の中の日本人としての自覚をもつことが必要である。他の国には日本と同じように，その国の伝統に裏打ちされた良さがあることやその国独自の文化と伝統に各国民が誇りをもっていることを理解させ，他の国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念をもたせるようにしたい。また，ものの見方や考え方，感じ方，生活習慣が違っても人間として尊重し合い，差別や偏見をもたず，公平，公正に接する態度を育てたい。

他の教育活動との関連

国際理解教育，ＪＲＣ（青少年赤十字），社会科（地理的分野）

教材について

展開の工夫

・日本とは違う韓国の具体的な生活習慣に注目させる。互いの文化や生活習慣には違いがあり，その背景にあるものの感じ方や考え方があることを理解させる。
・互いの文化を理解し合うことの大切さや価値観の異なる他者との共生の在り方について考えさせる。

教材解説＜あらすじ＞

・韓国にホームステイした主人公がともに生活する中で韓国独特の生活習慣やものの感じ方や考え方に触れていく。互いに似ているところや違いがあることを知り，その背景にある人々の願いや歴史について思いを寄せていく。

出典・その他

生徒作品

本文の構成

韓国の生活習慣
・碗を持たない
・年長者が食べるまで食べない
・父母の日
・先生の日

⟷ 日本との違い

背景にあるもの
・人々の願い
・民族の歴史

互いに理解し、尊重し合うことの大切さ

評価の観点

○韓国には日本とは違う生活習慣があることがわかったか。
○互いの文化を理解し，尊重し合う大切さに気付くことができたか。

展開のポイント：互いの文化を理解し，尊重し合うことの大切さをグループで話し合わせ，考えを深める。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　韓国について知っていることを発表し合う。	○韓流の音楽や食文化など，知っていることを自由に挙げさせる。
韓国について知っていることや思い浮かぶことを挙げてみよう。	
2　本文を読み，韓国と日本の生活習慣の違いについて考える。	
日本と異なる韓国の生活習慣について挙げてみよう。	
	●程度の違いはあるが，日本にも似たような考え方があることをおさえ，同じように儒教の影響があることを説明する。また，日本で失われつつある礼儀や他を敬う気持ちなどの大切さに気付かせる。 ○本文中にある韓国の文化以外に，韓国の文化について調べておき，補助教材として生徒に話すとよい。 ・商品を勝手に触るのはマナー違反 ・目上の人の目をじっと見ることは失礼 ・食事のときも正座はせずに，あぐらか膝を立てて食べる
文化や習慣の違いに触れたとき，あなたならどのように感じると思うか。	
	○「郷に入ったら郷に従え」という立場や是々非々の立場などから意見交換させる。 ●例として，「猫まんま」や「茶碗を持たない」などの行為をするかどうかで考えさせる。
3　互いの文化を理解し合うことの大切さを考える。	
世界では民族や宗教，考え方の違いなどから争いが起こっているのはなぜだろうか。	
	○グループで，互いを理解し合い，争いのない平和な世界にしていくために大切な思いや行動を話し合わせる。 ●グループでまとめた考えを全体で発表させ，多様な視点を共有する。
4　授業を振り返る。	
今日の授業を振り返り，今後の生活に生かしたいと思ったことを書こう。	

26	教材名 舞い降りる天女の下で	主題名 国際理解，国際貢献	C－(18)
ねらい	捕虜収容所での悲劇を通して，戦争の起こらない世の中を求め，世界の平和に貢献しようとする心を育てる。		

指導内容について

生徒について

現代社会において世界の各地で内戦やテロなどの問題が起こっているものの，平和な日本に生きている中学生にとって世界平和を意識したり考えたりする機会は少ない。70余年前の戦争の悲劇を知らない生徒も多い。

主題について

平和な世界をつくり上げようとする中学生の姿勢を通して，世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする意欲を育てる。

他の教育活動との関連

社会科，「総合的な学習の時間」（国際理解）

教材について

展開の工夫

・当時の日本の状況を知るとともに，直江津収容所で行われていたことを確認し共有する。
・当時の人々の葛藤に対して戸惑う女子中学生に対する共感度を，４段階の尺度で測る。
・平和を願う気持ちを醸成するとともに，自分たちの後の世代に，世界の平和と人類の幸福を託そうとする思いを醸成する。

教材解説＜あらすじ＞

・本教材は上越市にある捕虜収容所跡地に建てられた平和友好記念像の除幕式に参加した女子中学生の作文である。作文では，祖母から聞いた日本人の捕虜虐待の話や，その一方で収容所元所員・警備員たちの悲劇もあったことに触れている。オーストラリアと日本の関係を通して，平和と友好のために努力していきたいという素直な気持ちが書かれている。

出典・その他

・太平洋にかける橋（直江津捕虜収容所の平和友好記念像を立てる会）
・平和を守る（新潟県教職員組合）
『生命の詩』新潟県教育委員会

本文の構成

女子中学生の作文から
・虐待の状況とそうせざるを得なかった収容所職員の状況
←
オーストラリアと日本の両国にとってつらい状況

女子中学生の思いに対する共感度を四段階の尺度で測り、自我関与を促す。その位置の理由を話し合うことで、当時の日本の状況を再確認する。

←→ そのような中でも
・捕虜の人たちに優しさをもって行動する夫婦の存在を紹介する新聞記事
←
過去の事実を教訓とし、友好の大切さを再認識
平和な世界をつくっていこうとする決意

評価の観点

○学習を振り返りながら，戦争のない平和な世界にするために自分たちはどんなことができるかを述べることができたか。

展開のポイント：当時の時代背景や具体的な事実を写真や補助教材を提示しながら詳しく説明したうえで，戦争による悲劇が身近に起こっていたことを自覚する。そして，作文の筆者である女子中学生の思いに対する共感度を４段階の尺度で測ることで自我関与を促し，平和に対する考えを深められるようにする。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　直江津捕虜収容所について概略や当時の日本の事情等を知る。 2　具体的な事実の確認とその背景にあった状況を確認し，「私」の思いへの共感の尺度を４段階で測るとともに，その理由を話し合う。	○教材の範読を聞いて，わかったことを挙げさせながら時代背景や事実を確認させる。 ●写真や補助教材を用意して当時の様子をよりわかりやすく紹介し，身近で起こった悲劇であることを自覚させることで，自我関与を高められるようにする。
直江津捕虜収容所ではどのようなことが行われていたか。	
	○具体的な事実と背景にあったその当時の日本の状況を確認する。 ●捕虜に対する行為は，当時の日本の状況において，どうしようもなかったことではあるが，同じ人間としてやってはいけない行為であることを確認する。
「それが私なら，一体どうするか，考えても分かりません」という「私」にどのくらい共感するか。	
	○共感度を４段階で測る。 ３ とても共感　２ まあまあ共感　１ 少し共感　０ 共感できない ○４段階の位置について，その位置に付けた理由を述べ合う。 ●理由を述べ合う際，共感できる部分とできない部分について，整理させる。
3　平和を願う気持ちを醸成する。	
「その手のあたたかさ」に込められた思いとはどのようなものだったか。	
	○自分の考えをもたせる。 ○班内で個々の考えを発表させ，平和への願いを醸成させる。 ●過去の過ちを無駄にせず，未来の平和に期待する願いに気付かせる。
4　平和に貢献する姿を具現化させる。	
戦争のない平和な世界にするために，あなたはどのような行動をとればよいか書こう。	
	○今日の授業で学んだことを振り返り，まとめさせる。 ○数名を指名して全体の場で発表させ，共有させる。 ●平和のために戦後努力してきた人々の話など，具体的な補助教材を用意し，より具体的な実践を生徒が記述できるようにする。

27	教材名 長岡空襲で	主題名 生命の尊さ	D－(19)
ねらい	身近な場所で起こった凄惨な戦争について知り，命の尊さや，人と人とのつながりについて深く考えるきっかけとする。		

指導内容について

生徒について

長岡が大規模な空襲に遭い，大きな犠牲者が出たこと，犠牲者慰霊のために長岡花火「白菊」が打ち上げられることになった経緯を通して，生命の尊さについて考えさせたい。

主題について

生命や健康は，失われてから初めてその価値を痛感する。しかし，それはかけがえのないものであり，失われてからでは遅いのである。とかく結果を考えない軽はずみな行動や無鉄砲な行動に走りやすい中学生に生命の尊さを気付かせ，自他の生命の安全を考えさせることは重要である。自らの生き方を振り返り，あるいは他の生き方を思いやる心を培うことになるからである。

ここでは，自らの生き方への自覚を促すとともに，かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養っていくことが大切である。

他の教育活動との関連

理科における生物分野，技術・家庭における保育
「総合的な学習の時間」における平和学習

教材について

展開の工夫

・教材の絵やコメントから，空襲によって大切な仲間や家族，財産を奪った戦争に対する思いを引き出す。毎年８月に行われる長岡花火「白菊」に込められた想いから，命の尊さについて考えさせる。

教材解説＜あらすじ＞

・長岡空襲を体験した二人が描いた絵画のエピソード。一人は河川敷に避難している途中で，空襲で被弾して生死をさまよいもがき苦しむ友人の話。もう一人は，近所の鉄工場が焼夷弾に被弾し燃えさかる様子を語っている。

出典・その他

・中村誠太郎「友達を亡くす」
・土田邦彦「鉄工場が燃え崩れる」

本文の構成

戦争のイメージ
←
○友だちを亡くす
・土手へ避難
・K君が大けが
・励ます以外何もできない自分
・「白いまんまを腹いっぱい食べたい」
○鉄工場が燃え崩れる
・落下してくる焼夷弾の雨
・燃え崩れる家屋
←
長岡花火「白菊」への想い

評価の観点

○作者の思いに共感しながら交流することで，自分の考えを変容させたり，明確にしたりすることができたか。
○教材の絵や空襲体験者の話から，命の尊さについて考えを深めることができたか。

展開のポイント：長岡空襲についての教材から，命の尊さや人と人とのつながりについて話し合い，尊い命をつなぐために私たちにできることを考えさせる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　戦争について考える。	
戦争についてどのようなイメージがあるか。	
	○戦争についてのイメージや問題点を挙げさせる。 ○グループ内で発表し，問題点を共有する。 ・多くの人が殺し合う ・大切なものを失ってしまう
2　本文の２つの絵とコメントから考えを深める。	
絵とコメントを見て，思ったことや感じたことを話し合おう。	
	○話し合いの視点を明らかにさせる。 ・戦争によって何を失ったか ・どのような意味でこの絵が描かれたのか ●空襲によって大切な仲間や家族を失った悲しみから悲惨な戦争に対する思いを引き出したい。 ・目の前で家族や仲間を失った悲しみ ・「白いまんまを食べたい」と言い残した意味 ・戦争は何も得することはない
3　長岡花火「白菊」に込められた意味について考える。	
絵や写真には人々のどのような想いが込められているだろう。	
	●実際の長岡花火「白菊」の写真などを見せて込められた想いを考えさせる。 ●戦後長岡の人々がどのような思いで長岡花火開催を決意したのかを気付かせる。 ●二度と悲惨な戦争は繰り返さないことを確認しつつ，生命の尊さに気付かせる。 ○花火の行われている時期（８月１日～３日）が大きく関わっていることを意識させる。 ・二度と戦争を起こさない ・仲間や家族を失う戦争はあってはならない ●絵や写真を見て印象に残っていることをグループで出し合い，共有する。 ・ホワイトボードに書き出してまとめる ・付箋に意見を記入し，まとめる
4　授業の振り返り	
尊い命をつなぐため，あなたができることを考え，書こう。	
	・自他の命を大切にする ・亡くなった人たちを悼む

28	教材名 いのちをつなぐ	主題名 生命の尊さ	D－(19)
ねらい	自他の生命の重さを認識し，人が人を救うということの意味を考える。		

指導内容について

生徒について

中学生の時期には，健康に毎日を過ごせるためか，自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は，決して多いとはいえない。身近な人の死に接したり，人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。この機会に，生命の尊厳を考え，生命あるものは支え合って生き，生かされているという考えを深めることは大切である。

主題について

「骨髄移植」というテーマから，人の生命の重さについて考えさせる。他人を救おうとする多くの人々の考えに触れ，生命の尊厳について考えを深める。

他の教育活動との関連

福祉教育，骨髄移植，骨髄バンクに関する情報を活用して，現状や実際の手術例などを提示しながら考えを深めさせる。

教材について

展開の工夫

・身近なこととして考えさせるために，地元における骨髄バンクの状況や，献血の問題について，新聞記事やインターネットなどからの情報を導入で使いたい。
・教材を２時間扱いにし，１時間目は骨髄バンクのホームページ等からドナーや提供を受けた人の感想やデータ等を調べさせることも考えられる。

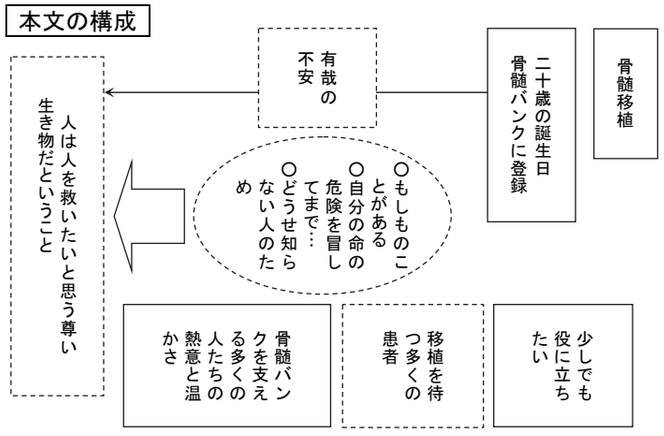
教材解説＜あらすじ＞

・骨髄移植のことを知った有哉は骨髄バンクに登録する。数百人から数万人に一人の確率で型が一致し，ドナーとなるかは有哉の判断に任される。有哉は不安に心が揺れる。結局有哉はドナーとなり骨髄液を提供する。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○心が揺れる有哉に共感しながら自他の生命の尊さについて考えることができたか。
○人の生命を救うために，自分のできることをしようとする姿勢をもつことができたか。

展開のポイント：登場人物の行動について意見交流することで，登場人物の葛藤に共感し，自他の生命の尊さについて自分の意見をもつ。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　骨髄バンクについて知る。	
骨髄移植や骨髄バンクについてどのようなことを知っているか。	
	○新聞記事やその他の情報を提示し，骨髄移植や骨髄バンクについてわかりやすく説明する。 ●補助教材などがあれば，配付して説明する。
2　本文前半（「有哉の心は揺れていた」まで）を読み，有哉の葛藤からその心情について考える。	
有哉の揺れる気持ちにどれくらい共感できるか。その理由もあわせて話し合おう。	
	○本文を読み，自分の考えをしっかりともつ。その際，理由付けもしっかりとさせる。 ●共感度を割合で表し，自分はどれくらい有哉の思いに共感できるかを考えるようにする。 共感度を４段階で測るやり方もある。（P61 参照） ○班で意見を交流する。その際，なぜそう考えたのか理由もしっかりと述べさせる。
3　本文後半を読み，有哉の決断を通して生命の尊厳について考える。	
なぜ，有哉はドナーになることを決意したのだろうか。	
	○本文から読み取れることを参考に，有哉の心の変容を捉える。 ・医者やコーディネーターから正しい知識を得ることができたから ・骨髄提供体験者の佐藤さんの話を聞き，骨髄移植で助かる命があることを知ったから ・渡辺さんから提供先の患者さんへの思いを感じることができたから ●考えを全体で共有し，さらに自分の考えを深められるようにする。
4　授業を通して考えたこと，感じたことをまとめる。	
今日の授業を通して，命をつなぐということに対して，あなたができることを考え，書こう。	
	○話し合いや全体での発表で共有したことを参考に，授業を振り返ったり，自分の考えをまとめたりする。

29	教材名 トキよ再び大空に	主題名 自然とともに	D－(20)
ねらい	環境保全の大切さを知り，自然と人間の共生についての考えを深める。		

指導内容について

生徒について

便利で快適な生活があたり前になっている今日，環境への配慮は忘れられがちである。

生徒はトキの歩んだ歴史やトキの保護の実態についてはあまり知らない。トキを滅ぼしたのも守ってきたのも人間であることを理解させ，これからを見つめることの大切さに気付かせたい。

主題について

トキの住む里山は，人間によって守り育ててきた自然である。人間の幸福や便利さの追求の結果，トキが滅びかけ，その後放鳥に至るまでの経緯を手がかりに環境保全の大切さを実感させ，人間が自然環境を守り育て，自然の中で共生していくという方向性を考えさせたい。

他の教育活動との関連

「総合的な学習の時間」などに実施している地域清掃などを想起させながら自然や環境の問題に目を向け，自分の在り方を考えさせる。

教材について

展開の工夫

・放鳥に至るまでの経緯から環境保全の大切さに気付かせる。
・単なる種の保存等のためでなく自然と人間の共生にポイントを置き，環境再生に取り組むことが人間にとっても望ましい環境になるという，身近な問題であることを捉えさせる。

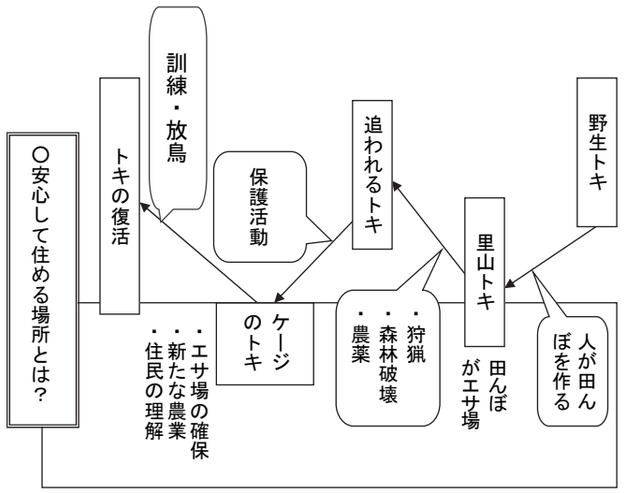
教材解説＜あらすじ＞

・教材は３部構成である。①トキ減少の理由，②トキの絶滅回避と人工増殖，③トキ放鳥計画（夢の実現に向けて）となっている。
・重点は③の部分にある。これまでの人工増殖以上に，熱意とエネルギーの必要な取り組みである。

出典・その他

佐渡トキ保護センター教材
センター長・堀井氏への取材
シンポジウム「トキを軸にした島づくり」報告集
編集委員会作

本文の構成



評価の観点

○トキの放鳥に至るまでの経緯を知ることができたか。
○トキを保護することが人間にとっても望ましい環境につながることに気付くことができたか。
○自然と人間の共生のためにできることを考えることができたか。

展開のポイント：トキの保護活動の経緯を知り，自然との共生の大切さに気付かせる。身近な自然環境に目を向け，環境保全のためにできることについて，意見交流させる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　本文を通読し，あらましをつかむ。	○現在の放鳥に至るまでのトキを巡る出来事を知る。
トキについてどのようなことを知っているか。	
	○掲載の教材本文，新聞紙面から，現在に至る経緯を知る。 ・かつては広く生息していた鳥であること ・乱獲によって，激減したこと ・愛護に努めたが絶滅したこと ・中国産の近縁種を増殖し，放鳥に至ったこと ●放鳥に際しても，環境整備が欠かせないことをおさえておく。 ●時数に応じて，本文の登場人物への自我関与に絞る等の取捨選択があってもよいし，本誌にはない映像教材等を活用するのもよい。
2　単なる種の保存に留まらない問題であることを理解する。	
人々はなぜトキを保護しようとするのだろうか。	
・小集団でまとめた意見を全体で共有する。	○「中国との国際協力」「種の保存」等，グローバルな視点をもった意見も挙がることが考えられる。いずれも否定するものではないが，最終的には，トキの住める環境が人間の生活にとっても望ましい環境であるという，身近な問題であることに気付かせたい。 ●ホタル等，トキ以外の身近な動植物を挙げて考えさせるのもよい。
3　授業を通して感じたことをもとに，これからの生活や環境を考える。	
自然とともに生きるために，あなたができることを考え，書こう。	
・グループで意見交換をしながら，理想的な共生について考える。	○本時の学びが実践につながるよう，具体的な行為・行動を想起させる。 ●参加を勧められている自然愛護活動について，その意味を再考させるのもよい。

30	教材名 佐潟と生きる	主題名 自然とともに	D－(20)
ねらい	佐潟と地域の人々との関わり方を理解して，人間と自然との関わりについての考えを深め，自然を愛し，守ろうとする気持ちや態度をもつ。		

指導内容について

生徒について

社会が地域レベルで環境保全を訴えている中，学校生活の中でも，環境問題を扱う機会は多くなってきている。ボランティア活動やクリーン作戦などを通して，環境保全を実践している姿も多くみられる。自分がどのように自然と関わり，ともに生きていくか考えを深めなければならない。また実践意欲を高めていくことも重要である。

主題について

貴重な自然環境である佐潟が人々との関わりの中で守られてきたことを知り，望ましい自然愛護の在り方について考えを深める。

他の教育活動との関連

地域ボランティア活動，河川や海岸のクリーン作戦，地域の自然環境をテーマにした「総合的な学習の時間」

教材について

展開の工夫

・佐潟の写真等を利用して，イメージを湧かせる。
・佐潟の白鳥が釣り針で傷ついている事実や「賢明な利用」をうたう湿原保護のためのラムサール条約についても説明する。

教材解説＜あらすじ＞

・新潟市の郊外，赤塚にある佐潟。砂丘湖でありながら，湿地特有の自然生態系を保ち，水鳥の住む貴重な湿地としてラムサール条約に指定される。主人公は，自分も好む釣りが近年佐潟の生態系に大きな影響を及ぼしていることを知り，複雑な思いをもつ。
・中学校では佐潟クリーン作戦や白鳥愛護活動を実施している。主人公の祖父は，70年も佐潟を見つめ，生活してきた近辺の人と佐潟の関わりについて切々と語る。

出典・その他

編集委員会作

本文の構成

- 新潟市赤塚…佐潟
  - 砂丘湖ながら湿地特有の生態系
  - ←ラムサール条約の登録地
  - **佐潟の歴史**
- 釣り…自然環境への思わぬ被害
  - 大切な生態系に釣り人のマナーが影響している
  - ・釣り針がオニバスに傷
  - ・釣り糸がカモに絡む
  - ・ごみの不法投棄
  - ◎釣りを禁止すべき…級友
  - ⇔複雑な思い
  - ◎クリーン作戦・愛護活動
  - **佐潟への害**
  - **保護活動**
- 人と自然の望ましい関わり方
  - ◎広志の祖父…佐潟と地域の共存関係を懐かしむ
  - ◎人の無責任な自然との接触
  - ↓関わり方の問題提起
  - **新しい保護と関係**

評価の観点

○人と自然との関わりについての考えを深め，自然を愛護する気持ちをもつことができたか。
○佐潟を例に，身近な自然について，その環境を維持し，保全していくために，自分が何をすべきかを考えることができたか。

展開のポイント：話し合い活動を通し，自然愛護に着目し，どのようなことを大切にしていくべきかを考え，全体で発表し，意見を交流させる。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　現在の佐潟の概要を知り，疑問点を明らかにする。	○佐潟の写真やスライドを用意する。 ○ラムサール条約について説明する。
佐潟での釣り人のマナーについて，あなたはどう思うか。	
2　広志の祖父が子どものころの，佐潟とその周辺に住む人々との関わりについて考えを深める。	○本文を読み，自分の意見をワークシートに記入させる。 ●和幸の発言や釣り人の行動に着目させて意見を出させる。 ○気付いたことを全体で発表させる。 ・釣り人が残していった釣り針や釣り糸で鳥が傷つけられていて，ひどいと思う ・釣り人のせいで，オニバスの芽が出なくなり，自然が傷つけられているので，釣りは禁止すべきだ
広志の祖父が子どものころ，佐潟と地域の人たちとの関係はどのようなものだったか。	
3　人と自然との関わりについて考える。自然を愛護し，共に生きていくためには，どうしていくべきか考える。	○関係をワークシートに記入させる。 ○全体で確認する。 ・レンコンを掘り，ヒシの実をとってゆでて食べた ・親は魚を捕り，アシを刈って生活に利用していた ・佐潟の泥を田んぼの肥料にしていた ・持ちつ持たれつな関係だった
佐潟の問題を例に，自然を愛護し共に生きていくために大切なことは，どのようなことか考えよう。	
4　これからの自分の行動について考える。	○自分の意見をじっくりと考え，記入させる。 ○班で各自の意見を発表させる。 ○全体の前で班ごとに出た意見を発表させる。 ・自然に対し，敬い大切にする気持ちを忘れずに接すること ・自然なしでは人間は生きていけないから，環境破壊につながるようなことはしないでいきたい ・自然と人間は持ちつ持たれつの関係だから，自然からもらうものは最小限にすべき。例えば，魚，樹木，水など ・ゴミをポイ捨てしない。電気や水道の無駄を省く
あなたは，自分の身近な地域の自然環境を維持し，保全していくために，何ができるか書こう。	
	●自分の身近な自然について考える働きかけをする。 ○自分の意見をじっくりと考え，記入させる。

31	教材名 はやぶさ小惑星イトカワの砂を地球へ	主題名 畏敬の念	D－(21)
ねらい	気高いものに感動する心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。		

指導内容について

生徒について

中学生の時期は，豊かな感受性が育ってくるとともに，自然や人間の力を超えたものに対して美しさや神秘を感じ，自然の中で癒やされる自己に気付くようにもなる。このような時期に美的な情操を深め，感動する心を育てることは，豊かな心を育て，人間としての成長をより確かなものにすることにつながる。

主題について

畏敬とは「敬う」という意味での尊敬・尊重と，「畏れる」という意味での畏怖という面とが含まれる。指導にあたっては，「はやぶさ」が何度も危機を切りぬけた奇跡的な帰還の姿から，感動や畏怖の念などを多面的・多角的に捉えることが大切である。

他の教育活動との関連

理科の宇宙に関する学習

教材について

展開の工夫

・なぜ，人はあきらめないかを深く考えることを通して，人と崇高なものとの関連（愛情，絆など）についても考えさせる。
・「はやぶさ」のプロジェクトの難易度，プロジェクトメンバーの「はやぶさ」に対する愛着，それぞれを十分に捉えさせる。

教材解説＜あらすじ＞

・2010 年 6 月 13 日，小惑星イトカワの砂が入ったカプセルが宇宙から帰還した。それは，7 年間にわたる工学実験探査機「はやぶさ」による世界的偉業の成功であったが，同時に，「はやぶさ」は大気圏突入により焼失した。

このプロジェクトは幾度となくトラブルに遭遇したが，なぜあきらめなかったのか。そして，機械一つにそこまでかけた，関わったメンバーの気持ちはどんなだったのか。

出典・その他

・編集委員会作
・川口淳一郎『はやぶさ，そうまでして君は』（宝島社）

本文の構成

小惑星イトカワの砂、帰還について
・人類初の快挙、サンプル採取
・難易度の高いミッション

⇔

最大のトラブル、燃料ガス漏れ
・全機能停止
・信号を二十四時間体制でキャッチ
→あきらめない、待つチーム
・奇跡的な帰還へ

帰ってきたはやぶさによる地球撮影
・満身創痍、大気圏突入
・地球帰還軌道の精確さ
・最後の撮影→はやぶさ焼失へ

評価の観点

○「はやぶさ」やプロジェクトメンバーの思いを通して，人間の力を超えたものへの畏敬の念を感じ，理想を実現しようとする生き方に共感できたか。

展開のポイント：擬人化した「はやぶさ」の立場で川口教授の感情などを感じることで奇跡的・感動的な結末を実感する。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　「はやぶさ」のプロジェクトをよりよく知る。	○ＪＡＸＡのホームページの動画や写真などを活用し，プロジェクトの説明をする。 ●はやぶさのことをよく知らない生徒も，興味・関心が高まるよう配慮する。 ●宇宙についてあまり興味のない生徒がいることも考えて，語句などに補足を入れながら範読するのがよい。
2　本文を読み，トラブルを乗り越え続けることができた奇跡を知る。	
はやぶさを襲ったトラブルには，どのようなものがあったか。	
	○対話形式でトラブルを挙げていく。（板書） 迷子，燃料ガス漏れ，電力喪失，交信途絶などについてわかりやすく板書する。
3　川口教授がはやぶさを思う気持ちを明らかにする。	●川口教授ははやぶさに思いを寄せ，単なる機械以上の存在になっていることをおさえる。
「最後に故郷を見せてあげたい」と思った（地球撮影の指示をした）のはどうしてか。	
	○意見の可視化に努める。（板書） ●幾多の危機を乗り越えたはやぶさの最後の場面で，川口教授の愛情を確認できるようにする。
4　畏敬の念を感じ，共有する。	○はやぶさを擬人化して考えさせる。
「はやぶさ」になったつもりで，川口先生にお別れのメッセージを書こう。	
	●奇跡の連続を呼び起こすような，人間の力を超えたものを感じ取れるようにする。 ○板書や教師の読み上げなどにより，他者の意見を共有できるようにする。
5　授業の振り返り	○今日，学んだことなどを記録する。
今日の授業を通して，感じたことを自由に書こう。	

32	教材名 偉大なる力をもつ自然，素晴らしき自然	主題名 感動，畏敬の念	D－(21)
ねらい	身近な風景や実際に起こった自然災害から，自然の美しさや気高さに感動する心と，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。		

指導内容について

生徒について

生徒は，普段，風景や自然環境を見たり触れたりしていても，物質的・心情的な恩恵を受けているという実感や意識，自然に対する感謝や感動をもつ者は少ない。そして，地震，豪雪，噴火等の災害が起こっているが，災害が起こることの辛さや大変さそして恐ろしさの意識はあるが，人間の力ではどうすることもできない脅威なものという考えには至っていない。

主題について

新潟県内にある自然の風景や自然がもたらす恩恵を捉えるとともに，県内で起こった自然災害を知ることを通して，自然の脅威や自然に対する畏敬の念を深める。

他の教育活動との関連

社会科，理科，防災教育

教材について

展開の工夫

・新潟県内の自然環境が私たちの生活にもたらす恩恵を捉えられるような写真教材を提示し，自然から受ける恩恵と感動について，表出する。その際，キーワードからイメージマップを作成してもよい。
・新潟で起こった主な自然災害について知り，自然は恩恵をもたらすだけでなく，怖さや災害の大変さをもたらす存在であることに気付かせる。
・自然の中で暮らす人間はどんな存在かを考えさせ，人間の力ではどうすることもできない存在であることに気付かせる。

教材解説＜あらすじ＞

・本教材は新潟県内にある恩恵をもたらす自然環境の写真教材と，身近に起こった自然災害，そして，新潟地震を体験した中学生の作文から構成されている。

出典・その他

・新潟県内の風景写真
・新潟県内で起こった災害の様子の写真
・新潟地震を体験した生徒作文
（新潟市立松浜中学校 村山茂さんの作文）

本文の構成

自然の感動、恩恵を連想させる
新潟県内の各所でみられる、人間の生活に感動や恩恵をもたらすような写真教材を提示する。
←
自然の恐ろしさ、大変さを連想させる
新潟県内で起こった自然災害の様子を伝える写真教材を提示し、人間の力を超えた恐ろしさや生活の大変さを想起させる。
←
新潟地震を体験した生徒作文の紹介
新潟県内で起こった自然災害の様子を伝える写真教材を提示し、人間の力を超えた恐ろしさや生活の大変さを想起させる。
←
3つの資料を通して
自然における人間の存在を考える

評価の観点

○学習を振り返りながら，自然の脅威と人間の存在の小ささに気付き，自分たちが自然とどう関わっていけばよいかを述べることができたか。

展開のポイント：自然に対する感謝や感動を，写真教材を提示しながら十分に確認させる。その後，教材を用いて自然の恐ろしさに気付かせたうえで，人間の存在や自然との関わり方について考えを深められるようにする。

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　これまでの生活を振り返り，自然が美しいと感じたことや癒やされると感じたこと，また，怖いと感じたことを出し合う。 2　教材をもとに，自然の恩恵を出し合う。	○美しいと感じたり，心が和んだりした場面や景色を思い出させる。さらに，自然が怖いと感じた場面を思い出させる。
自然の恵みにはどのようなものがあるだろう。	
	○「恵み多き自然」を見ながら自然の恩恵に感謝したり，美しい自然に感動したりしていることを幅広く知らせる。 ●物的な恩恵だけでなく，景観からも心を豊かにしてもらっていることに気付かせる。 ●自然の恩恵を出し合う際，「海や川」「雪」「山（火山）」「森林」などといったキーワードからイメージマップを作るように出し合ってもよい。
3　今までに新潟を襲った災害やそれに伴う被害に気付く。	
これまでにどのような自然の脅威があったのだろう。	
	○新潟で起こった主な自然災害を読み，自然は感動や恩恵だけを与えてくれるのではなく恐ろしい存在であることにも気付かせる。 ●生徒の作文を通して，災害の被害だけでなく，生活の不安にもつながることに気付かせる。
4　恩恵と脅威をあわせもつ自然の中で生活する人間について考える。	
こういった自然の中で生活する人間はどのような存在だと思うか。	
	○自然は人間の力を超えたものであることに気付かせる。 ●自然によって生命が守られるが自然によって命を奪われることもあるという葛藤をもたせる。 ○班内で考えを発表させる。
5　自然に対する多様な考えをもとに，感じたことを書く。	
今日の授業を通して，感じたことを書こう。	
	○自分の考えや班内の交流場面で参考になったことをもとに授業を振り返りまとめる。 ●数名を指名し，発表させることで，自分の考えを深められるようにする。 ●他者の考えと交流する中で，人間の有限性や自然の中で生かされていることにも気付かせたい。

33	教材名 死を見つめて生きる 生命の詩 ――矢沢 宰――	主題名 よりよく生きる	D－(22)
ねらい	人間には，自らにある弱さを克服しようとする強さがあることに気付き，人間としてよりよく生きるための希望や喜びを見いだそうとする心情を育てる。		

指導内容について

生徒について

中学生はこれまでに何度か自分の弱さに直面し，自信がもてずに悩みを抱える時期にある。

生命の有限性について意識する場面は少ないと思われるため，よりよく生きることについて考えさせたい。

主題について

自らの弱さに向き合い，揺れる気持ちを詩に表すことで生きる希望を見いだした矢沢氏の生き方から，よりよく生きていこうとする姿勢に気付かせたい。

また，生きることや人生についてじっくりと考える機会を与え，自己の生き方を見つめさせたい。そこから，自分の目指す生き方や誇りをもった生き方，夢や希望をもった生き方を見いだそうとする心情を育てたい。

他の教育活動との関連

保健体育・保健分野，各種ボランティア活動

教材について

展開の工夫

・死の恐怖と闘いながらも，多くの詩を作り，生命を全うした矢沢氏の生き方に自我関与させ，よりよく生きるための希望や喜びを自分なりに考えさせる。
・限られた生命を最後まで生きる気高さを感じさせたい。
・周囲への感謝や生きていく中での苦悩などに注目させたい。

教材解説＜あらすじ＞

幼少の頃から腎臓結核で闘病生活を余儀なくされ，死への恐怖や不安を抱えて病魔と闘い，多くの詩を残して21歳で他界した矢沢宰の生き方を描いたものである。

矢沢氏は中学生の頃に真正面から死と向き合うことで，限られた命の大切さを自覚し苦悩する。しかし，周囲の人々の支えから詩を作るという生き方を見つけ，若い命を全うする。

出典・その他

『生命の詩』新潟県教育委員会

本文の構成

小学校の卒業式直後に倒れる
病院で生死の境をさまようが、意識を取りもどす

母の涙を見たとたんに死の恐怖にふるえる
今までは生きることをなかばあきらめていた

病院での入院生活　絶対安静の日々が続く
（病気と闘うのはおれ　たった一人でばい菌と闘う）

父母や祖父母へのあまえを感じる
死ぬのが怖い
夢の中では、元気な頃の思い出の風景
目が覚めると死の恐怖におそわれる

十四歳で詩を書き始める
「そこで思いついて、詩を書いて、
その苦しさを紙の上に表してみたのだ」

二十歳のとき、腎臓結核が再発。その後、劇症肝炎におそわれ、二十一歳でこの世を去った。

評価の観点

○限られた生命の中で，死と向き合い，詩を書き始めた矢沢少年の様子から，心の変容を捉えることができたか。
○授業を通して，自分の弱い心などに気付き，それを克服しようとしたり，生きる希望をもったりして，自分の生き方に対する考えをもつことができたか。

展開のポイント：若くしてこの世を去った矢沢宰の生き方や考え方に触れることから，よりよく生きようとすることについて，自分の考えをもち，他者の考えを知ることで学びを深める。（登場人物への自我関与が中心の学習）

学　習　活　動	支援（○）と留意点（●）
1　自分の生命に期限を付けられたときに，残された日々をどのように過ごしたいか考える。	●自分本位な生き方，物質面や精神面で自分の欲望を満たすような生活，絶望感や投げやりな気持ちを引き出す。
自分の生命が「あと数年」と宣告されたら，あなたは残された日々をどのように過ごしたいと思うか。	
2　本文を読んで，死への恐れや不安に直面しながら病気と闘い，多くの詩を残した矢沢氏の生き方について考える。	
矢沢少年が急に“死”への恐怖を感じるようになったのはどうしてだろう。	
	○小２の手術の際は死ぬかもしれないことを平気で覚悟していた矢沢少年が，卒業式後に倒れてベッドで気が付いたときは周囲で支えてくれる人々の存在に気付き，“死”への恐怖を感じたことをおさえる。
矢沢少年はどのような思いで，詩を書き始めたのだろう。 （あなたが矢沢少年と同じ状況になったらどうするか。）	
	●自分を支えてくれる周囲の人々への感謝の気持ちや死と向き合って生きていく中での苦悩を自分の言葉で表現し，人間としての生き方を模索していることに目を向ける。 ○自分の考えをもたせる。 ○それぞれの視点から意見交流する。 周囲への感謝の気持ちや“死”への恐怖と闘いながら生きる苦悩を表現する手段として詩を書き始めた主人公の思いを感じ取る。
3　矢沢氏の生き方から学んだことを，今後にどのように生かしていくべきか，自分の考えをまとめる。	
矢沢宰の人生から感じたことを書いてみよう。 また，あなたは，これからの自分の人生をどのように生きていきたいと思うか。	
	●これからの自分の生き方を考える。 ○「少年」の詩の「絶対に釣れるはずのない砂漠で魚を釣ること」は矢沢氏自身の生きる希望を表現していることに触れてもよい。

内容項目

A　主として自分自身に関すること					
自主，自律，自由と責任	(1)	自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	1	スランプ	2 年
節度，節制	(2)	望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け，安全で調和のある生活をすること。	2	マゴワヤサシイ	1 年
向上心，個性の伸長	(3)	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	3	「小さな大エース」と呼ばれた挑戦者	1 年
希望と勇気， 克己と強い意志	(4)	より高い目標を設定し，その達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	4	剱岳に魅せられて	2 年
			5	目の不自由な人に教育の光を――大森隆碩――	3 年
真理の探究，創造	(5)	真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	6	カラフトは離島なり――松田伝十郎の発見――	3 年
B　主として人との関わりに関すること					
思いやり，感謝	(6)	思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。	7	月明かりで見送った夜汽車	3 年
礼儀	(7)	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。	8	荷物	1 年
友情，信頼	(8)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	9	行かなかったサイクリング	1 年
相互理解，寛容	(9)	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めていくこと。	10	勝手にしろ	2 年
			11	「しかし」の壁	3 年
C　主として集団や社会との関わりに関すること					
遵法精神，公徳心 ≪情報モラル≫	(10)	法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守るとともに，そのよりよい在り方について考え，自他の権利を大切にし，義務を果たして，規律ある安定した社会の実現に努めること。	12	アイドルグループ〇〇　極秘路上ライブ！	1 年
公正，公平，社会正義	(11)	正義と公正さを重んじ，誰に対しても公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努めること。	13	豊かなれ阿賀の流れよ～新潟水俣病の苦悩をこえて～	3 年
社会参画，公共の精神	(12)	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め，公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	14	サポーター	1 年
			15	助け合い	3 年
勤労	(13)	勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献すること。	16	職場体験レポート	2 年
			17	山男の心	3 年
家族愛，家庭生活の充実	(14)	父母，祖父母を敬愛し，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	18	心をつなぐカレンダー	1 年
よりよい学校生活， 集団生活の充実	(15)	教師や学校の人々を敬愛し，学級や学校の一員としての自覚をもち，協力し合ってよりよい校風をつくるとともに，様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	19	あじみこ+そ	2 年
郷土の伝統と文化の尊重， 郷土を愛する態度	(16)	郷土の伝統と文化を大切にし，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め，地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，進んで郷土の発展に努めること。	20	郷土芸能クラブ	1 年
			21	わたしの町	2 年
			22	米百俵	3 年
			23	郷土を水害から救った人――中山龍次――	3 年
我が国の伝統と文化の 尊重，国を愛する態度	(17)	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに，日本人としての自覚をもって国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展に努めること。	24	さよなら，ホストファミリー	2 年
国際理解，国際貢献	(18)	世界の中の日本人としての自覚をもち，他国を尊重し，国際的視野に立って，世界の平和と人類の発展に寄与すること。	25	アンニョンハセヨ	1 年
			26	舞い降りる天女の下で	2 年
D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること					
生命の尊さ	(19)	生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること。	27	長岡空襲で	1 年
			28	いのちをつなぐ	3 年
自然愛護	(20)	自然の崇高さを知り，自然環境を大切にすることの意義を理解し，進んで自然の愛護に努めること。	29	トキよ再び大空に	2 年
			30	佐潟と生きる	3 年
感動，畏敬の念	(21)	美しいものや気高いものに感動する心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	31	はやぶさ　小惑星イトカワの砂を地球へ	3 年
			32	偉大なる力をもつ自然，素晴らしき自然	1 年
よりよく生きる喜び	(22)	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることに喜びを見いだすこと。	33	死を見つめて生きる　生命の詩――矢沢　宰――	2 年

学習指導案　　年　　月　　日　　限

主題名		内容項目	
教材名			

本時のねらい

学　習　活　動	支　援　と　留　意　点

評価等

学習指導案　　年　　月　　日　　限

主題名		内容項目	
教材名			

本時のねらい

学　習　活　動	支　援　と　留　意　点

評価等